

秋田大学 概要 平成29年度 要

2017

A K I T A U N I V E R S I T Y

秋田大学

概

平成29年度

要

目 CONTENTS 次

- 01 学長あいさつ
- 02 基本理念、第3期中期目標・中期計画

教育・研究

- 05 卓越した教育と研究
- 06 地方創生・産学連携
- 08 国際交流

学部・大学院

- 11 国際資源学部
- 12 教育文化学部
- 13 医学部
- 14 理工学部
- 15 [大学院]国際資源学研究科／教育学研究科
医学系研究科／理工学研究科

大学施設

- 17 附属図書館
- 18 医学部附属病院
- 20 国際資源学研究科附属鉱業博物館
- 21 附属学校園及び教育研究施設等
- 22 学内共同教育研究施設
- 23 センター／技術組織
- 24 福利厚生施設等／体育施設
- 25 東京サテライト／
横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校
- 26 インフォメーションセンター

平成29年度主な課外行事

資料編

- 30 沿革
- 33 歴代学長
- 34 運営組織
- 35 教育研究組織
- 36 事務組織
- 37 役職員
- 38 学生の定員・現員
- 39 入学志願者・入学状況／出身高校所在地別在学状況
- 40 卒業生・修了者数／学位授与数
- 41 卒業生等就職状況／平成28年学生表彰等受賞者
- 42 平成28年度学生表彰等受賞者
- 44 外国人留学生数／外国人研究員等
- 45 国際交流協定校
- 46 公開講座(平成28年度)
- 47 国内機関との連携・協力協定
- 48 役員数／教職員数
- 49 平成29年度予算／外部資金受入状況／
平成28年度科学研究費助成事業採択状況
- 50 土地・建物
- 51 各連絡先・所在地一覧
- 52 手形地区施設配置図
- 53 本道地区施設配置図／保戸野地区施設配置図
- 54 アクセス



学長あいさつ

Message from the President

秋田大学は、平成26年度の大幅な組織改革によって、国際資源学部、教育文化学部、医学部、理工学部の4学部体制となりました。平成28年度からはさらに、大学院を国際資源学研究科、教育学研究科、医学系研究科、理工学研究科の4研究科体制とし、総合的な教育研究体制が整いました。社会から求められている大学の使命である、最先端の教育研究を強く意識した体制の地盤がより強固なものになりました。

文部科学省は大学経営の基盤となる運営費交付金改革において、全国の国立大学法人を(1)世界最高の教育研究拠点を目指す大学群(2)全国的な教育研究拠点を目指す大学群(3)地域活性化の中核的拠点を目指す大学群の3群にわけ、それぞれの目的に沿ってその成果を評価するという方針を打ち出しました。私たちの秋田大学は(3)の地域活性化の中核的拠点を目指す大学群を選択しており、これまで以上に地域貢献に資する最先端の教育研究が求められています。

秋田大学はこれまで(1)世界・地域を見据えたリーダーを育む(2)世界・地域を視野に未来を創造する(3)地域と共生し豊かな社会を創る(4)地域に根ざし世界を目指す、というビジョンに沿って歩んでまいりましたが、その基礎となるものは世界と地域に貢献する最先端の研究、およびその目的にアプローチする研究が可能な人材の育成であります。秋田大学に関わる全ての教職員が「学生第一」を掲げているのも、そこにあります。学生にきめ細やかな教育環境を提供し、知的好奇心を育てていくことが、世界と地域への道標となるのです。

秋田大学は、この地を軸に、世界を視野にした四つの学部を構えております。そこには、私たちが育んできた「歴史」と「誇り」があります。

教育文化学部。ここには、小中学生の学力日本一という秋田の、教育の支柱となる教員を養成してきたという実績があります。学校教育課程においては、きめ細やかな教育プログラムに加え、伝統に育まれた教員養成を展開しています。教員は次世代を担う皆さまを良き「後継者」として育てて世に送り出し、時代を繋いでおります。地域文化学科では、何事にも対応できるための「教養」を身に付けることを目指しております。柔軟な思考を育むことを通じて、不確実性ともいえる時代に臨む皆さんを支援しています。

私たちが暮らす秋田は、国内では有数の資源を誇る地でありました。そしてそのフィールドは今、世界へとつながっております。国際資源学部という学部名に込められた思いは、ここにあります。鉱山専門学校に始まり工学資源学部で発展させてきた、世界に誇れる研究成果と人材の育成。世界に例を見ない資源学の総合教育研究体制を敷いています。ここでは3年生になると、全員が4~5人のグループに分かれ、海外資源フィールドワークに参加します。他大学に進学した高校の同級生が、生涯行くことはないであろう地にも赴きます。資源学の現場。日本の最前線を世界で知る機会を通じて、皆さんは学問が生きていることを実感できるはずです。

理工学部は、資源系の学部であった工学資源学部から理学系の要素を取り入れた学部として発足しました。誇るべき研究成果が続々と秋田(大学の研究室)から発信されております。例えば、メタルナノコイルから航空機複合材成形。この研究は複合材の軽量化・低コスト化を目指すものです。次世代航空機の機体の材質への応用が期待され、世界が注視しております。

医学部においては、世界に発信できる教育研究の成果と地域医療への貢献が挙げられます。医師国家試験の合格率は例年、全国の医学部でも上位にランクされております。きめ細やかな教育の証左といえましょう。保健学科も、人を支える挑戦を続けています。看護師国家試験、理学療法士国家試験、作業療法士国家試験はほぼ、100%の合格を維持しています。

地域に貢献する教育研究活動にも力を注いでいます。平成28年度に設置した地方創生センターは、地域協働・防災と、地域産業研究の2部門から成り、秋田県の地域活性化へのさらなる貢献を目指すものです。地域協働・防災部門では県内3か所に設置した「分校」を拠点に、地域の人たち、学生、教職員が一体となり、例えば米作り、オリジナルのいぶりがっこ作りなどを通じて、秋田の良さを再認識。故郷の誇りを広げていく試みを続けております。地域産業研究部門では、秋田県の重要政策にリンクした研究事業を展開。県内産業の育成は、「COC+事業」の目標でもある大学生の県内就職率のアップに大きく貢献できることと考えております。

シームレスの状態で行われる学部教育から大学院教育。そして明確なミッションを掲げた各センター。これらが「優秀な卒業生を社会へ、そしてすぐれた研究を社会に還元する」という秋田大学の使命に応える礎といえます。秋田大学を「母校」とする我々は皆、優れた学生諸君を社会に輩出すること、そしてこの地(秋田)が輝きを増すことを誇りに思っております。

国立大学法人秋田大学長 山本 文雄

基本理念

1. 国際的な水準の教育・研究を遂行します。
2. 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
3. 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

(平成28年4月1日～平成34年3月31日)

第3期中期目標・中期計画

Mid-term Objectives and Plan

国立大学法人秋田大学の中期目標 (前文) 大学の基本的な目標

秋田大学は、知の創生を通じて地域と共に発展し、地域と共に歩むという存立の理念を掲げ、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、その使命である教育と研究を推進する。

この見地から本学は、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れ、優れた人材を育成するため、地域や世界の諸機関との連携による柔軟な教育研究体制の構築を推進する。

全地球的な視野を持ちつつ、諸課題に正面から向き合い、地に足をつけて行動できる規範意識を内在させた社会人を育成するためには、充実した教養と専門、さらには分野融合的な教育が不可欠である。そこで、本学の国際資源、教育文化、医、理

工の四学部は、固有のミッションに基づく専門領域と諸学諸組織との融合を通じて、地域社会の持続的な発展を担う専門的職業人と国際社会で活躍する高度専門職業人及び学術研究者を育成する。

こうした基本認識に立って、本学は学生と教職員との全学的な知の交わりが躍動する、学修者中心の大学たることを目指す。

以上のような理念に基づき、活動の基本的な目標を以下に定める。

1. 教育においては、質の国際通用性を高め、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成する。



秋田大学中央図書館
Akita University Library

中期目標

2. 研究においては、地域の特性を活かした研究とグローバルな課題に対応する研究に取り組むことにより、イノベーションの創出を推進し、その成果を継続的に地域と世界に発信する。
3. 社会連携においては、教育研究成果を地域社会に還元し、地域と協働した地域振興策の取組を推進するとともに、地域医療の中核的役割を担う。
4. 国際化においては、資源産出国を中心とした諸外国の留学生・研究者との学術交流を推進するとともに、学生や教職員の海外留学・派遣を促進する。
5. 大学経営においては、学長主導の下、学生及び教職員一人ひとりの活力を相乗的に高めた組織文化を浸透させ、透明性を確保した健全で効率的な大学経営を目指す。

- I 大学の教育研究等の質の向上
 - II 業務運営の改善及び効率化
 - III 財務内容の改善
 - IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供
 - V その他業務運営
- に関する目標を達成するためにとるべき措置として、72項目の中期計画を設定しています。

本学の中期目標・中期計画の全文は
〈ホームページ〉 http://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_target.html からご覧いただけます。

教

育

研

究

卓越した教育と研究

- 博士課程教育リーディングプログラム
レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム
- 地(知)の拠点整備事業(COC事業)
～一人ひとりを大切に、自立した高齢社会に向けた地域づくり～
- 「地(知)の拠点大学」による地方創生推進事業(COC+事業)
～若者の地元定着の促進と若者の育成～
- 国際科学技術共同研究推進事業
地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)

地方創生・産学連携

国際交流

卓越した教育と研究

博士課程教育リーディングプログラム レアメタル等資源ニューフロンティア リーダー養成プログラム

(実施期間:平成24年度採択～平成30年度)

大学院国際資源学研究科に「資源ニューフロンティア特別教育コース」を開設し、従来の資源学に留まらずリサイクルや資源経済、さらに環境保全や資源リテラシー、異文化理解、国際関係などを含めた知識、能力を養成し、21世紀の国際資源開発に関わる諸問題に俯瞰力をもって挑める人材「資源ニューフロンティアリーダー」の育成を目指します。



男鹿半島での地質調査の様子

地(知)の拠点整備事業(COC事業) ～一人ひとりを大切に、 自立した高齢社会に向けた地域づくり～

(実施期間:平成25年度採択～平成29年度)

平成25年度の文部科学省の新規重点補助事業で、事業参画自治体の秋田県及び横手市、北秋田市、潟上市や地域住民と協働作業を進め、超高齢社会においても希望を持てる「秋田発の地域生活モデル」の構築、そして地域から愛され地域から必要とされる大学の形成を進めています。



統合看護演習/統合看護実習の成果発表会(横手市)



COC+キックオフシンポジウムで「大学は知恵を」と訴える石破茂地方創生担当大臣(秋田市・H28・2・6)

「地(知)の拠点大学」による 地方創生推進事業(COC+事業) ～若者の地元定着と若者の育成～

(実施期間:平成27年度採択～平成31年度)

平成27年度の文部科学省の新規重点補助事業で、地域活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」を発展させ、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するなど、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を図ろうとするものです。県や商工団体など事業協働機関とともに、5年間で「学生の地元就職率10%アップ」を目指します。

国際科学技術共同研究推進事業 地球規模課題対応国際科学 技術協力プログラム(SATREPS)

持続可能な資源開発実現のための空間環境解析と高度金属回収の融合システム研究

(実施期間:平成26年度採択～平成31年度)

環境汚染に悩まされるセルビア共和国の銅資源開発地域において先進リモートセンシングデータと地表データを組み合わせた3次元的な環境評価・解析と高度な金属回収技術を融合し、持続的な資源開発に不可欠な開発と環境との両立を目指した広域環境評価修復システムの研究開発を進めています。



セルビア共和国での調査の様子

地方創生・産学連携

秋田大学は、平成16年度の国立大学法人化を契機に、教育・研究・社会貢献を大学運営の重点事項として掲げ、公共的な知の拠点として大学開放事業を推進しています。

本学の社会貢献活動の根底には、学生のみならず生涯学習も教育の一環であり、社会の人々にも積極的に教育資源を提供していこうという思いが込められています。そのコンセプトを基に、様々な活動を展開しています。また、高校生やその保護者、

あるいは小・中学生を対象とした企画も実施しています。

平成28年4月には地方創生に取り組む地(知)の拠点大学として、新たに「地方創生センター」を設置しました。当センターは地域との協働による地域振興策の取組及び地域防災等の研究・支援並びに地域産業の成長に資する研究を推進し、地域を担う人材育成の推進と地域の産業振興、活性化に貢献します。

地域協働・社会貢献

■公開講座

生涯学習の一環として、市民・県民の皆様どなたでも本学の良質な教育資源を提供するために、毎年多種多様なテーマで公開講座を開講しています。



※平成29年度開講の講座は本学公式ホームページをご覧ください。

■子ども見学デー

毎年夏休みに、小学生とその保護者の方を対象に「子ども見学デー」を実施しています。大学内の見学や研究室での実験、天体望遠鏡での観察など、様々な体験を通じて、大学に対する関心を高めてもらうことが目的です。



■自治体との連携

本学が持つ教育・研究資源の提供と、地域活性化の促進

を目的に、秋田県内自治体と連携協定を締結しています。「地域に根ざした大学」を目指し、講演会や地域交流朝市、子ども向け科学教室の開催や、学生の地域



交流等による地域貢献を行っています。平成29年5月1日現在、秋田県を含む15の自治体と連携協定を締結しています。

■メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト

社会貢献事業の全学的な取り組みとして、本学の持つ学術的知見を分かりやすく県民へ提供するため、学部間連携により各学部から講師を招き、医学部がサイエンスカフェ・マスターとなって、幅広い視点から医学・健康に関する話題を提供しています。

■小・中学生等の大学見学受け入れ

小・中学校の総合学習や職場体験学習の一環として行われる大学見学等を受け入れています。職員が学内の施設を案内したり質問に答えたりしながら、本学を紹介します。

地域防災

1. 秋田県の特性を考慮した

地域防災のあり方に関する調査・研究

- ①秋田県内の地震防災について基礎的研究を行います。
- ②秋田県沿岸で過去に発生した津波の影響範囲や履歴を調査し、津波被害の軽減について研究します。
- ③秋田県内に将来甚大な被害をもたらす可能性がある地震・津波について調査・研究します。

2. 防災について地域で活動できる人材の育成

地震災害が発生



した場合に地域住民自らが減災活動を行えるように、自治体・町内会、教育機関等で防災教育を実施します。

3. 県及び市町村への防災施策に関する指導助言

秋田県の地震被害の想定並びに地震防災対策を推進するために、県内自治体が考える防災・減災対策について、地域の特性を考慮しながら指導・助言を行います。



地域産業研究

■資源開発・環境リサイクル研究開発事業

天然の鉱物資源や石油、天然ガス等のエネルギー資源に関する開発と生産・利用にはじまり、資源精製や素材精算、レアメタル等のリサイクルから環境修復技術に至る高度で独創的な研究を推進し、国際的な視野に立った先進的教育研究拠点を構築します。



■新素材・機能性材料開発研究事業

新素材・機能性材料開発事業では秋田大学における基礎研究成果を基盤とした新素材や先端材料の開発に関連した研究を推進し、地域の高等研究機関としての機能を果たすことで、これら研究をおととして秋田県内企業、大学、公設試の連携による新産業や雇用の創出を目指します。



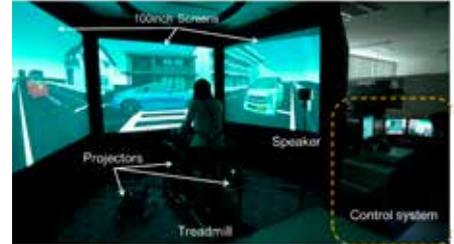
■複合材の新たな製造技術及び接合検査技術に関する研究開発

(研究主体 村岡 幹夫 理工学研究科長)

航空機機体主要構造物をターゲットとした複合材の革新的な低コスト製造技術・検査技術を開発。秋田県での航空機部品等の事業化を目的に県内企業とともに「秋田複合材新成形法技術研究組合」を設立し、製造拠点の創生を目指しています。

■機械システム・電気電子デバイス系研究開発事業

航空機、自動車などの輸送機産業を推進する地域への貢献のために、次世代の航空機、自動車のための複合材料成形プロセス・CAE構造設計技術、高効率動力システムおよび運転・歩行者支援とインフラに関する研究開発を推進します。



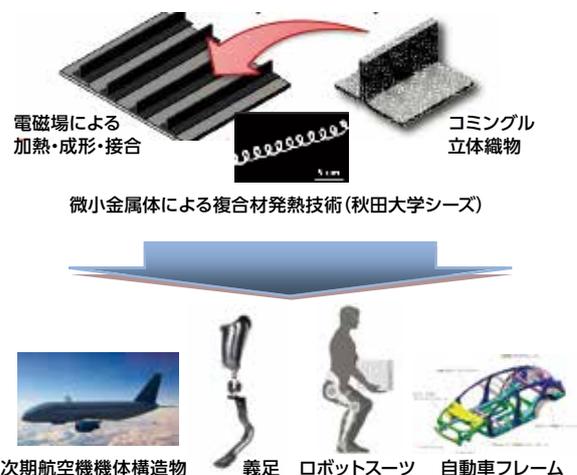
■航空宇宙産業研究事業

秋田県地方における航空宇宙産業の発展と若者の地元定着を図るため、秋田県内の航空宇宙産業に関連する機関と連携しながら新しい要素技術の研究開発と企業側と大学側双方の人材育成を推進します。



ロケット展示会

県内企業とのロケット燃料試験



秋田県内での製造拠点化を創生

国際交流

世界に広がる 学術ネットワークと海外拠点

今まで大学間協定は30カ国・地域58大学、部局間協定は9カ国・地域17学部等となりました。今後も協定校との学術交流、学生交流を推進し、積極的な国際交流をすすめていきます。

海外拠点の設置にも力を入れています。2012年、初の海外事務所としてモンゴル科学技術大学内に、「秋田大学モンゴル事務所」を開設しました。本学研究者の現地における調査・研究拠点として利用しています。

2013年に、二つ目の海外拠点として、バンコク(タイ王国)のチュラロンコン大学内に、秋田大学・チュラロンコン大学共同研究室を置きました。チュラロンコン大学と共同研究を行っている秋田大学のチームが使用し、両大学にとっての研究及び現地調査の拠点となっています。

2014年に北都銀行バンコク連絡事務所内に開設した「秋田大学バンコク事務所」は、東南アジア地域における事務的拠点として、現地関係機関との連絡調整及び留学生獲得のための広報活動を行っています。本事務所は、「秋田大学・北都銀行における新戦略連携協定」の締結に合わせて設置されました。2015年に、秋田県庁はタイ進出秋田県関連企業ネットワークを組織し、バンコク都内で設立総会を開催しました。本学では、この機会にあわせてスラナリー工科大学・秋田大学・北都銀行のMOU締結式を行っています。

インドネシアにも二つの拠点を作りました。2015年に、トリサクティ大学内に開設した「国際資源学部・トリサクティ大学共同研究室」は、顕微鏡や岩石カッターなどの研究機器を備

えた研究室です。国営石油会社プルタミナから試料の提供を受けるなど、通常は権益の関係から入手が難しい石油資源データを集め、共同で石油探査の技術力を高めています。翌2016年には、ハサヌディン大学内に、国際資源学部とハサヌディン大学工学部との共同研究室を開設しました。室内には、秋田大学の偏光顕微鏡、顕微鏡用デジタルカメラ、研磨機などを設置しています。

インドネシアに研究拠点を置くことで、アジアの地下資源をテーマにした共同研究、共同による地域の探査・開発への取り組みがさらに強化されることが期待されます。



ハサヌディン大学共同研究室(平成28年2月)

資源開発の研究拠点から 留学生広報まで

全学組織として平成21年に設置された国際資源学教育研究センターは、国際資源学研究科を母体とし、資源保有国への技術支援や、資源学シンポジウムを開催し、資源開発における研究拠点を目指しています。

中でも、ショートステイプログラムは、交流の活発な協定校より、学部生を本学で4週間受け入れて、座学・実験の他、県内資源関連施設の視察などを行っています。

最近、プログラムを終えて帰国した学生が、正規留学生や交換留学生として、再び本学に戻ってくるケースも増えてきており、本学の海外広報としての役割も期待されています。

秋田大学は世界に開かれた大学として国際交流の拡大を図っています。そのために、学生及び教職員の海外留学・



派遣の促進と外国人留学生の受け入れの増加、受け入れ環境の整備等に努めています。平成20年2月には国際交流センターを設立し、戦略的な国際交流を進めるための体制が整いました。

外国人留学生に対する教育・生活支援の充実

留学生数の増加に伴い、教育支援体制の整備も積極的に行っています。

平成21年度には私費外国人留学生のための、本学独自の奨学金(秋田大学私費外国人留学生奨学金)を創設しました。これにより、協定校等からの成績優秀な留学希望者に対し、奨学金を支給できるようになりました。

秋田の文化に対する理解を深めるため、農家民泊やもちつき、横手かまくらやスキー合宿など、地域に根ざしたイベントを企画し実施しています。また、「チューター制度」を採用することにより、日本人学生が留学生の日本語学習や生活のサポートを行っています。

平成22年4月には多様な言語を自律的に学べるスペースとして「多文化交流ラウンジ」が設置され、海外留学説明会や報告会を定期的に開催しています。

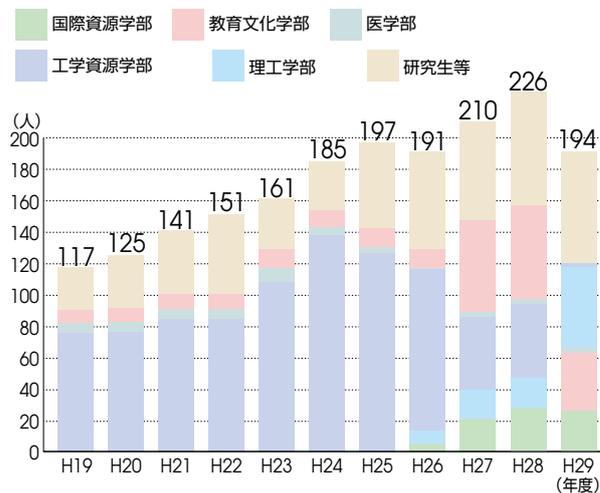


田植えを体験する留学生



多文化交流ラウンジ

〈留学生数の推移〉



国際的視野を持った人材の育成

若手教育系職員を海外の大学等に派遣し、国際的な視野を持った人材の育成を目指すため、「秋田大学研究者海外派遣事業」を実施しています。制度化した平成20年度から今までに、毎年約3名程度、計27名の研究者がこの制度を利用し、海外の大学で研究を行いました。

また、学生に対しては、協定校などの海外の大学へ留学する際の経済的支援のため、「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」を実施しています。これは往路に要する国際線の航空運賃の一部(アジア圏上限4万、それ以外上限10万)を支給するもので、平成28年度は5名に対して支援を行いました。



海外留学説明会

学
部

大

学

院

[学部]
国際資源学部
Faculty of International Resource Sciences

教育文化学部
Faculty of Education and Human Studies

医学部
Faculty of Medicine

理工学部
Faculty of Engineering Science

[大学院]
国際資源学研究科
Graduate School of International Resource Sciences

教育学研究科
Graduate School of Education

医学系研究科
Graduate School of Medicine

理工学研究科
Graduate School of Engineering Science

国際資源学部

国際資源学部は、資源生成メカニズムの解明から資源探査、開発・生産までを対象とした理工系分野と、資源国の政策・文化や資源経済などを対象とした人文社会系分野からなり、資源を網羅的に学ぶことができる我が国唯一の「資源学」を対象とした学部です。世界の第一線で活躍する教授陣を結集し、世界をフィールドに、資源の最先端を学びます。国内外の大学や企業、研究機関との強力な連携体制のもと、国際舞台で活躍できる資源人材を養成します。

学部の構成(1学科)

【国際資源学科】

地球規模の資源問題解決に向けて、国際的な視野をもち、実践的能力を育みます。

●資源政策コース(文系)

資源を取り巻く国際情勢や政策を理解し、関連する国際法や資源経済、資源国との契約や交渉術、その背景となる資源国の文化などについて学びます。

●資源地球科学コース(理系)

世界を対象とした資源分野の予測と新たな地球資源の可能性を探究するため、地質学、鉱床学などの最先端地球科学を基礎とした地球史をダイナミックに考察します。

●資源開発環境コース(理系)

資源・エネルギーの探査・開発、生産手法から、製錬・リサイクル技術や環境保全に至るまで、資源開発と地球環境との関わりを包括的に学びます。



カリキュラムの特色

コース	1年次	2年次	3年次	4年次
資源政策コース	〈教養教育科目〉 ○初年次ゼミ ○主題別科目 現代社会 人間と文化 科学の探求 生活と保健 地域社会 技能の活用 ○国際言語科目 ○スポーツ文化科目 〈基礎教育科目〉 国際資源外交史 異文化コミュニケーション 資源開発と人権問題 基礎資源経済学 日本の国際協力 基礎数学 基礎物理学 基礎化学 基礎物理学実験 基礎化学実験 基礎統計学	資源学実習(全学生必修) <ul style="list-style-type: none"> ●資源政策論 ●国際法学 ●交渉学 ●石油資源論 ●エネルギー地政学 ●資源地域研究 ●資源動向論 ●地質図学 等 	〈専門科目〉 <ul style="list-style-type: none"> ●国際情勢分析論 ●鉱業法 ●資源契約論 ●資源環境経済学 ●人的資源管理論 ●資源開発生産論 ●資源循環学 ●リサイクルシステム学 等 	海外資源フィールドワーク(全学生必修) <ul style="list-style-type: none"> ●資源プロジェクトマネジメント ●研究プロポーザル 等
資源地球科学コース	<ul style="list-style-type: none"> ●地質学 ●石油地質学 ●鉱物学 ●金属鉱床学 ●岩石学 ●国際法学 ●材料力学 ●地球物理学 ●資源処理工学 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●構造地質学 ●古環境解析学 ●堆積学 ●X線結晶学 ●リモートセンシング地質学 ●防災地質学 ●物理探査学 ●岩石力学 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●物理探査学 ●資源探査学 ●岩盤工学 ●リサイクル・廃水処理工学 ●資源開発生産論 ●素材開発工学 ●製錬プロセス工学 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●資源開発環境文献購読 ●研究プロポーザル 等
資源開発環境コース	<ul style="list-style-type: none"> ●流体力学 ●物理学 ●石油工学 ●工業製図 ●粉体・界面工学 ●分析化学 ●地球化学 ●金属鉱床学 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●物理探査学 ●資源探査学 ●岩盤工学 ●リサイクル・廃水処理工学 ●資源開発生産論 ●素材開発工学 ●製錬プロセス工学 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●物理探査学 ●資源探査学 ●岩盤工学 ●リサイクル・廃水処理工学 ●資源開発生産論 ●素材開発工学 ●製錬プロセス工学 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●資源開発環境文献購読 ●研究プロポーザル 等

専門科目は全て英語で授業

世界で活躍するために、英語力は必須です。国際資源学部では、1・2年次に「I-EAP」という特別なカリキュラムで集中的に英語を学びます。また、ディスカッション演習、ディベート演習によって、実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めています。こうした実践的な英語学習を経て、専門科目の講義は全て英語で行います。語学の面でも、国際的な最前線で戦える力を身に付けることができるカリキュラムを用意しています。

文理融合カリキュラム

海外で資源の開発を行う上で、その国の政治・経済状況、文化や宗教観を知っておくことは、極めて重要な意味を持っています。また、資源を扱うには、文化だけでなく、その国特有の事情や関連する法律についても知らなくてはなりません。専門科目の一部はコースを横断して履修できるカリキュラムとなっており、文系理系の枠を超えて資源学を修める上で共通に求められる知識・技術を修得することができます。企業が海外での資源戦略を展開する上で、文系の人間と技術系の人間の両方が必要になり、資源開発において文理両方の視点には必須となります。

海外実習必修の教育制度

3年次の後半に、全学生が海外資源フィールドワークに参加します。国際資源学部を設立するにあたって、国内の大学や企業はもちろん、海外の大学や企業からもご協力をいただき、国際資源学部の学生全員が海外で1か月程度のフィールドワークを体験できるネットワークを用意しています。候補地としては、ヨーロッパや北米、モンゴルやインドネシアなど、世界各地の鉱床などがあります。運営されている鉱床そのものを見たり、それに附属する研究施設を見学したりして、実際に稼働している資源開発の現場に入ること、これから自分の取り組む研究のテーマを体験します。

I-EAP(集中大学英語)
「I-EAP」は、Intensive-English for Academic Purposesの略。英語力を「読む(reading)」「聞く(listening)」「書く(writing)」「話す(speaking)」「プレゼンテーション(presentation)」の5つの技能に区分し、8週間一区切りで個別技能の教育を行う集中講座。授業は全て英語で行い、技能ごとの目的に合った教材を担当教員が選定し、少人数編成のクラスで基礎英語力を徹底的に鍛えます。

ディスカッション演習
ディベート演習
プレゼンテーション技法
実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めています。語学の面でも、国際的な最前線で戦える力を身に付けます。

国際資源クリエイティブ演習
全学生必修の海外資源フィールドワーク(鉱山・石油関連企業や商社・国際協力機関等での必習程度の実習)の目的を理解し意義あるものにするため、事前・事後学習の場としての国際資源クリエイティブ演習を設けます。

〈学部共通科目〉 ●国際関係論概論 ●地球科学概論 ●資源地域社会学概論 ●資源地質学概論 ●国際情勢特別講義 ●資源開発環境学概論 ○=必修科目

基礎 資源を学ぶ上で基礎となる知識を習得する。

発展 学部共通科目で学んだ資源の基礎的知識を基盤として、各コースの専門に関連する分野を発展的に理解する。

実践 海外における実践的な学びにより、世界の資源フィールドで活躍するための広い視野を身に付ける。専門性を高め、卒業課題研究で取り組むテーマを明確にする。

教育文化学部

教育文化学部は、教員養成を担う学校教育課程と地域協働の核となる人材養成を担う地域文化学科の1課程1学科からなります。学校教育課程は、教育現場との密接な連携を図りつつ、現場実践力のある教員を養成、全国最高水準の秋田県教育の継承と活性化を目指します。地域文化学科では、社会科学と人文科学などの多様な学問分野の学習と、地域と連携した授業やフィールドワークなどの実習を通じて、地域の諸課題について国際的な視点とローカルな視点から実践的に学ぶことができます。

■学部の構成(1課程1学科)

【学校教育課程】

地域の教育の活性化に貢献する教員を養成します。

●教育実践コース

小学校教員の養成を主とし、中学校教員養成も含めて、小中連携にも対応できるようになるとともに、子どもの心身の成長発達について理解を深め、全国トップクラスの学力を支える高度の実践力を持った教員を養成します。

●英語教育コース

小中高の連携による英語教育を実践できるとともに、秋田の次世代のグローバル人材を育てるために、英語力のみならず異文化間コミュニケーション能力を持った教員を養成します。

●理数教育コース

理科・数学の体系的な知識と指導法を身に付け、理科や数学のおもしろさを子どもに伝えることができ、実感を伴った理解へと学習を発展させることができる教員を養成します。



●特別支援教育コース

特別支援学校および小・中学校等で特別支援教育を担うとともに、インクルーシブな環境で、発達の特性や特別なニーズに対応した支援を実践できる教員を養成します。

●こども発達コース

幼稚園や保育所の教員・保育士の養成を主とし、小学校教員養成も含めて、幼保小連携に対応できるスキルを身につけるとともに、人間の生涯にわたる発達過程や、幼児教育・保育と学校教育の全過程を見通しながら省察できる教員を養成します。

【地域文化学科】

地域活性化に貢献する人材を養成します。

●地域社会コース

法学や経済学などを学ぶ公共政策領域、社会学や地理学などを学ぶ地域環境領域、心理学を学び認定心理士の資格を取得できる心理実践領域、地域食資源を活用した商品開発や住環境などを学ぶ生活科学領域、ICTを学ぶ情報コミュニケーション領域の5領域で構成され、専門的かつ多角的に地域社会について学べます。

●人間文化コース

日本を含むアジアと欧米の言語・文化について、文学・歴史学・哲学・芸術学・言語学などの人文科学的な視座から学ぶことができます。体系的な外国語教育プログラム(英・独・仏・露・中国・朝鮮語)や海外研修も活用しながら、国際社会の多様なあり方を幅広く理解した上で、その知見を地域文化の活性化につなげられる能力の修得を目指します。



地域の自治体や生産者との連携・協働(地域交流市)



海外研修(ロシア)

医学部

医学部は、豊かな教養に支えられた人間性、学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決力を養い、医学・健康科学に対する十分な理解のもとに、人々の健康と福祉に貢献できる国際的視野を備えた人材を育みます。卒業後は、臨床現場で医療人として活躍する道のほか、大学院に進学し研究者や教育者をはじめとする医学医療の高度な専門家を目指す道が開かれています。

■学部の構成(2学科)

【医学科】

医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身につけた人材を養成します。

【保健学科】

看護学・理学療法学・作業療法学の3専攻6講座を設けており、医療専門職(看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士)を養成します。

医学科	大学院所属の教員が教育を担当する。	
保健学科	専攻	教育担当組織
	看護学	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎看護学講座 ●臨床看護学講座 ●母子看護学講座
	理学療法学	<ul style="list-style-type: none"> ●地域生活支援看護学講座 ●理学療法学講座
	作業療法学	<ul style="list-style-type: none"> ●作業療法学講座



医学科

6年

入学

初年次ゼミ
教養基礎教育科目
専門教育科目

臨床実習

卒業試験

学位：学士(医学)

●医師国家試験

保健学科

4年

入学

- ◆看護学専攻
- ◆理学療法学専攻
- ◆作業療法学専攻

初年次ゼミ
教養基礎教育科目
専門科目
専門基礎科目

臨地実習
臨床実習

卒業研究

学位：学士(看護学・保健学)

- 作業療法士国家試験
- 理学療法士国家試験
- (助産師国家試験)※選択
- (保健師国家試験)※選択
- 看護師国家試験

理工学部

理工学部は、「理」に裏打ちされた専門能力と高い倫理性を持ち、学際分野にも目を向けられる、総合力で日本や地域に貢献できる人材の育成に力を注ぎます。1・2年次では理学に関する教育を徹底して行い、3・4年次ではその知識を専門という場で活用しながら身につけていきます。自ら課題を発見でき、未知の分野の課題に対しても幅広い視野から、柔軟に解決できる能力を修得させる学士課程教育を実施します。

■学部の構成(4学科)

【生命科学科】

ライフサイエンス分野のさまざまな課題に挑戦する研究者・技術者を育成します。

●生命科学コース

多様な生命現象を、生体を構成する分子レベル、個々の細胞や個体レベル、生物の集団レベルで解明することについて学びます。

【物質科学科】

先端機能材料や化学プロセスに携わる研究者・技術者を育成します。

●応用化学コース

無機材料、有機材料、エネルギーに関連した化学工学からバイオプロセスまで幅広い化学の専門分野を学びます。

●材料理工学コース

固体物理学、固体化学、金属材料学、セラミック材料学を中心として基礎科学から材料の工学的応用までの幅広い分野について学びます。



【数理・電気電子情報学科】

数学・物理から電気・電子、情報通信の各分野をリードする多彩な人材を育成します。

●数理科学コース

代数学、幾何学、解析学、離散数学、量子力学、電磁気学を中心として、数理科学とコンピュータサイエンスについて学びます。

●電気電子工学コース

電力工学、半導体デバイス工学、計測エレクトロニクス、電気機器学を中心として、電気・電子・情報・通信工学を支える基盤技術について学びます。

●人間情報工学コース

ヒューマンコンピュータインタラクション、福祉情報工学、画像解析学、情報通信とネットワークを中心として、コンピュータサイエンスを基礎とした高度な応用技術を学びます。

【システムデザイン工学科】

新しいものづくりができる実践的な技術者を育成します。

●機械工学コース

材料力学、流体力学、熱力学、機械力学、制御工学、ナノテクノロジー、医療工学、バイオメカニクス、ロボット工学を中心として、あらゆる産業の基盤をなす機械工学について学びます。

●創造生産工学コース

設計工学、創造製作学、電気電子回路、システム制御工学、ロケット工学、プロジェクト実践研究を中心として、工学分野について幅広く学びます。

●土木環境工学コース

構造設計学、建設材料学、地盤工学、水理学などを中心として、安全・安心・快適な地域環境を創造・保全する技術について学びます。

■通信教育講座

秋田大学理工学部には、国立大学法人唯一の「社会通信教育講座」があります。昭和23年の開講以来、伝統と歴史を背景に、約1,800名の修了生を社会に輩出しています。

科学技術に関する教養的な知識を得るための一般科学技術コースと、資源系、材料系、電気電子系の基礎及び専門を学べるコースが用意されています。

大学院

国際資源学研究所

国際資源学研究所は、資源循環型社会の実現のため資源地球科学分野および資源開発環境学分野に関する高度な知識と専門性に裏付けられた最先端の教育・研究を進め、地球科学から資源開発、環境保全に至る広範な知識を修得し、グローバルリーダーとして活躍できる人材の養成を目的としています。



博士前期課程
資源地球科学専攻 資源開発環境学専攻
博士後期課程
資源学専攻

博士課程リーディングプログラム レアメタル等資源ニューフロンティア特別教育コース (5年一貫博士課程[コース])
地球資源コース 資源開発素材コース

教育学研究所

教育学研究所は、理論と実践の往還を通じて現場の課題を解決し、実践知の継承と創造に取り組む意欲と高度な力量を有する初等中等教員の養成と、教員や学校等を支援して地域の発展に貢献できる高度専門職業人の養成を目的としています。本研究科には、教職実践専攻(教職大学院)と心理教育実践専攻(修士課程)の2専攻があります。



教職大学院(専門職学位課程)	
教職実践専攻	学校マネジメントコース カリキュラム・授業開発コース 発達教育・特別支援教育コース
修士課程	
心理教育実践専攻	心理教育実践コース

医学系研究所

医学系研究所は、人類の健康・福祉の発展に寄与する医学・医療・生命科学の最先端研究を推進できる国際的視野を備えた優れた研究者・高度専門医療人を育成することを目的としています。



修士課程		
医科学専攻		
博士前期課程・博士後期課程		
保健学専攻	博士前期課程	看護学領域 リハビリテーション科学領域
	博士後期課程	女性・小児発達支援科学分野 生活機能・健康行動支援科学分野
博士課程		
医学専攻	病態制御医学系 社会環境医学系	腫瘍制御医学系 臨床教育協力部門
機能展開医学系		

理工学研究科

理工学研究科は、地域産業を担う高度な専門的技術者・研究者、地域に根ざしたグローバルな人材、国際的な視野をもって地域の産業を自ら生み出す挑戦者、これからの国際社会でのイノベーションを担う人材を養成するとともに、地域産業・地方行政と連携することによって地方創生を推進することを目的としています。



博士前期課程	
生命科学専攻	生命科学コース
物質科学専攻	応用化学コース 材料理工学コース
数理・電気電子情報学専攻	数理科学コース 電気電子工学コース 人間情報工学コース
システムデザイン工学専攻	機械工学コース 創造生産工学コース 土木環境工学コース
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	
博士後期課程	
総合理工学専攻	生命科学領域 物質科学領域 数理・電気電子情報学領域 システムデザイン工学領域

大

学

施

設

附属図書館

医学部附属病院

国際資源学研究科附属鉱業博物館

附属学校園及び教育研究施設等

- 附属幼稚園 ○附属小学校 ○附属中学校 ○附属特別支援学校
- 附属教育実践研究支援センター ○附属鉱業博物館
- 附属病院 ○附属病院シミュレーション教育センター
- 附属地域包括ケア・介護予防研修センター
- 附属理工学研究センター
- 附属ものづくり創造工学センター ○附属地域防災力研究センター

学内共同教育研究施設

- 生体情報研究センター ○情報統括センター
- バイオサイエンス教育・研究サポートセンター ○放射性同位元素センター ○環境安全センター
- 産学連携推進機構 ○国際資源学教育研究センター ○地方創生センター

センター

- 評価・IRセンター ○教育推進総合センター ○学生支援総合センター
- 高大接続センター ○教員免許状更新講習推進センター ○国際交流センター

技術組織

- 総合技術部

福利厚生施設等

- 保健管理センター
- 大学会館(クレール)〈手形キャンパス〉 ○本道会館(メディココ)〈本道キャンパス〉
- 学生寮 ○国際交流会館 ○留学生会館

体育施設

- 陸上競技場 ○野球場 ○球技場 ○ハンドボール場 ○大体育館 ○小体育館
- 柔剣道場(武道場) ○弓道場 ○テニスコート ○プール(25m) ○運動場

東京サテライト

横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校

インフォメーションセンター

附属図書館

University Library



中央図書館(正面玄関)

- 附属図書館は中央図書館(手形キャンパス)と医学図書館(本道キャンパス)からなり、図書・雑誌・視聴覚資料・電子情報等の学術資料の体系的な収集管理と提供を行っています。

● 蔵書冊数 中央図書館:426千冊 医学図書館:111千冊

〈開館時間〉

区 分	授業期間	長期休業期間
平 日	8:30~22:00	8:30~17:00
土・日・祝	12:00~18:00	休 館

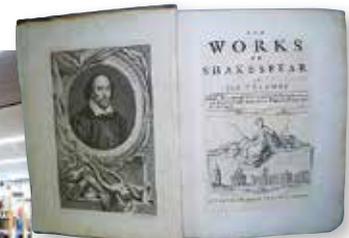
- 附属図書館は学生・教職員の学習・教育・研究の支援をしています。学生のアクティブ・ラーニングを実現する新しい学びの場としてコモンズ・グループ学習室が整備されています。また、地域に開かれた図書館として、一般の方にも開放しており、閲覧・貸出サービスをご利用いただくことができます。

〈サービス内容〉

- 閲覧 ● 貸出・予約
- 文献複写 ● レファレンス
- 蔵書検索 ● 各種データベース
- PC・電子黒板等の機器利用



中央図書館閲覧フロア



特別コレクション。
18世紀に出版された
シェイクスピア全集等を
所蔵しています



中央図書館ラウンジ



中央図書館コモンズ



医学図書館コモンズ

- 詳細についてのお問い合わせは

〈中央図書館・利用サービス担当〉

TEL.018-889-2279 E-mail: libriyo@jimu.akita-u.ac.jp

〈医学図書館〉

TEL.018-884-6052 E-mail: ibun@jimu.akita-u.ac.jp

〈附属図書館ホームページ〉

<http://www.lib.akita-u.ac.jp/>

医学部附属病院

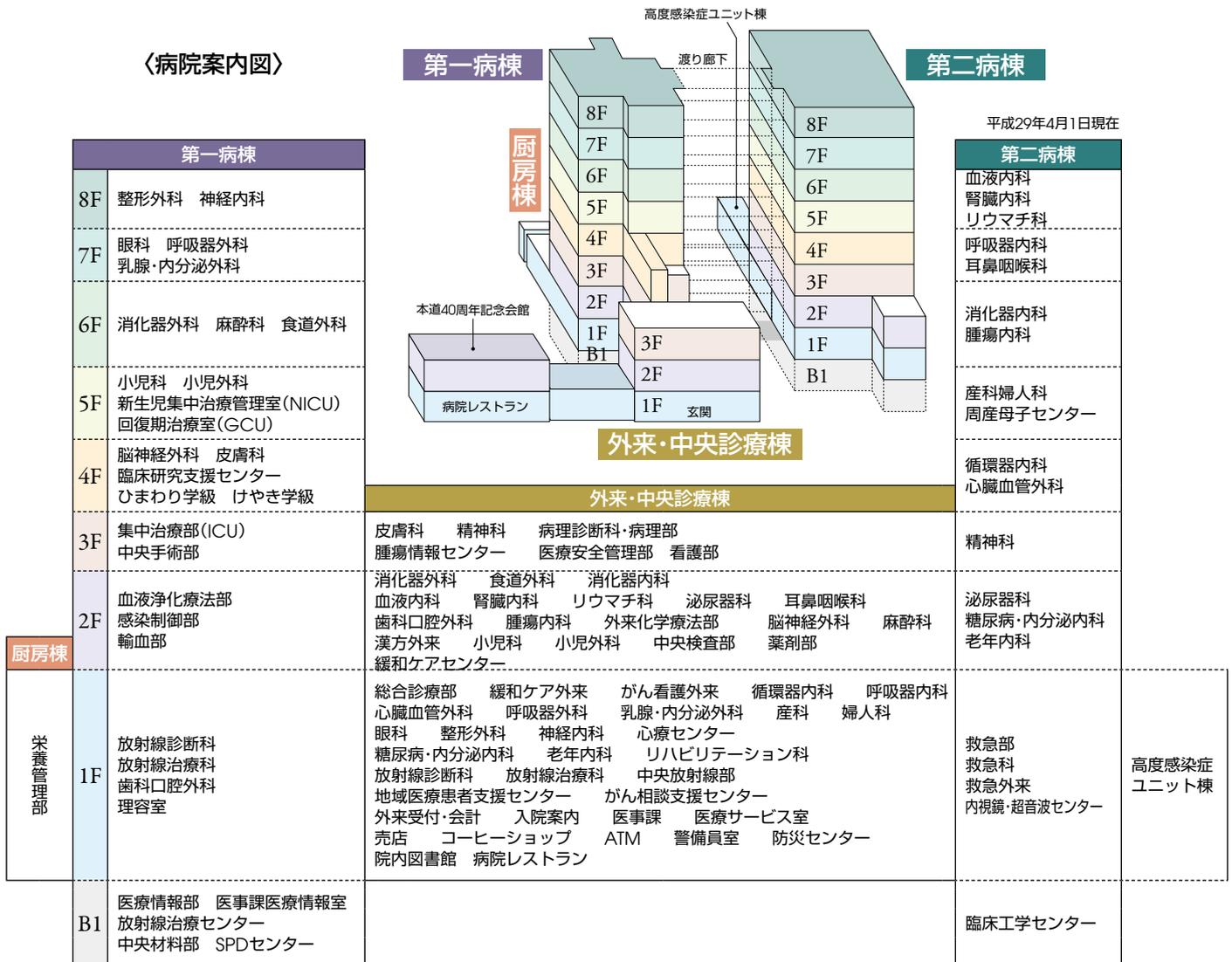


医学部附属病院(正面)

医学部附属病院は、教育研究施設であるとともに、地域における医療機関の中核として各専門分野にわたる豊富な知識と最新の医療機器等による診療機能を駆使する医療機関であり、平成6年には特定機能病院として承認を受け、地域に対する指導的役割を担う病院として、今後なお一層地域社会への貢献を行います。

また、患者にとって安心できる医療環境の下で、良質で高度な医療を適切に提供することをとおして、優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに、地域医療・保健活動の中心としての役割を担い、さらに国際的にも貢献できるよう努めます。

〈病院案内図〉



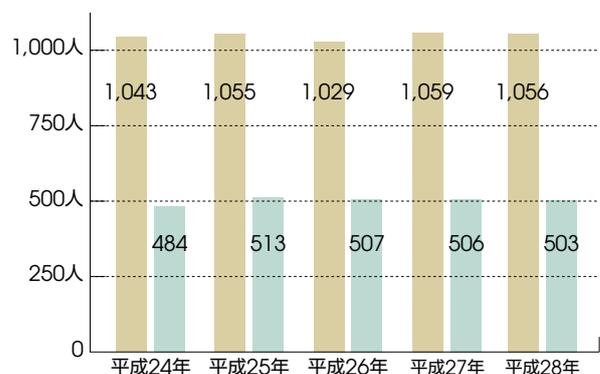
〈診療科別入院及び外来患者数〉

平成28年度

区分	入院		外来	
	延患者数	一日当平均患者数	延患者数	一日当平均患者数
消化器内科	12,816	35	20,260	83
神経内科	2,249	6	4,784	20
循環器内科	10,276	28	17,268	71
呼吸器内科	6,050	17	6,741	28
血液内科	12,328	34	6,343	26
腎臓内科	1,265	3	2,312	10
リウマチ科	1,506	4	7,139	29
糖尿病・内分泌内科	3,443	9	15,887	65
老年内科	0	0	0	0
消化器外科	8,108	22	5,193	21
呼吸器外科	5,210	14	2,174	9
食道外科	7,480	20	1,975	8
乳腺・内分泌内科	1,295	4	4,871	20
心臓血管外科	9,398	26	1,891	8
脳神経外科	9,813	27	7,624	31
小児外科	1,112	3	1,698	7
小児科	10,392	28	8,713	36
産科	5,772	16	4,613	19
婦人科	5,363	15	13,743	57
精神科	10,367	28	18,324	75
整形外科	13,361	37	15,116	62
皮膚科	5,641	15	19,789	81
泌尿器科	11,628	32	14,457	59
眼科	7,409	20	17,129	70
耳鼻咽喉科	11,263	31	13,223	54
放射線診断科	120	0	1,223	5
放射線治療科	1,963	5	3,875	16
麻酔科	0	0	1,036	4
リハビリテーション科	0	0	0	0
腫瘍内科	3,796	10	2,759	11
救急科	462	1	3,014	12
病理診断科	0	0	0	0
歯科口腔外科	3,718	10	13,452	55
計	183,604	503	256,626	1,056

〈年度別1日平均患者数〉

● 外来患者数 ● 入院患者数



〈中央診療施設等〉

- 中央検査部 ● 中央手術部 ● 中央放射線部
 - 中央材料部 ● 集中治療部 ● 救急部 ● 輸血部
 - リハビリテーション部 ● 医療情報部
 - 血液浄化療法部 ● 中央病歴部
 - 周産母子センター ● 病理部 ● 総合診療部
 - 臨床研究支援センター ● 臨床工学センター
 - 移植検査センター ● 総合臨床教育研修センター
 - 内視鏡・超音波センター ● 遺伝子医療部
 - 腫瘍情報センター
 - 地域医療患者支援センター・がん相談支援センター
 - 化学療法部 ● 緩和ケアセンター
 - 心療センター ● 栄養管理部 ● 肝疾患相談センター
 - 腎疾患先端医療センター
-
- 医療安全管理部 ● 感染制御部 ● 薬剤部 ● 看護部



ヘリポート及び立体駐車場

国際資源学研究科附属鉱業博物館 Mineral Industry Museum



〈入館案内〉

- 開館時間／9:00～16:00
- 休館日／年末年始(12月26日～翌年1月5日)
- 入館料／〈大人〉100円
〈高校生以下〉無料

〈平成29年度鉱業博物館行事〉

- ジュニアサイエンススクール
〈期間〉7月下旬(2日間) 〈対象〉小学校6年生



翡翠輝石(新潟県糸魚川市)



サイエンスボランティアによる案内



展示棟1階



平成28年度ジュニアサイエンススクール
「トレジャーハント～きらめく石を君の手で～」



中央ホール

附属学校園及び教育研究施設等

Affiliated School
Facilities for Education
and Research

平成29年5月1日現在



附属中学校
●附属学校園

区 分	総定員	学級数	現 員						計	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		
附属幼稚園	3年保育	96	4	〈3歳児〉32	〈4歳児〉30	〈5歳児〉31			93	
附属小学校		603	18	95	95	91	97	84	90	552
附属中学校		480	12	144	152	141				437
附属 特別支援学校	小学部	18	3	5		6		5		16
	中学部	18	3	7	6	6				19
	高等部	24	3	10	8	10				28



附属教育実践研究支援センター

【施設目的】
学習環境及び教育臨床等の教育実践に関する総合的研究

【研究部門等】
学校教育研究部門、教師発達研究部門、教育臨床研究部門、
学校連携推進室、教職キャリア支援室、臨床心理相談室

附属鉱業博物館

【施設目的】
●鉱業に関する教育、研究及び調査を行う
●鉱業関係の博物館資料の収集、保管及び展示

●標本資料／約20,000点
●公開標本／約3,300点



附属病院シミュレーション教育センター

【施設目的】秋田県内医療人の更なるスキルアップと質の高い専門医の養成に繋げ、医学シミュレーション教育が秋田県の医療再生の礎となるよう、秋田県と秋田大学の協同によって開設

●1階：TVセミナー室、画像診断学習室 ●2階：緊急処置ラボ、臨床基本手技ラボ ●3階：外科研修室、外科手技ラボ、産婦人科手技ラボ、臨床専門手技ラボ

附属地域包括ケア・介護予防研修センター

【施設目的】
高齢化率全国1位の秋田県における地域包括ケアシステム(自分が望む場で自分らしく最後まで暮らせるような地域のケア体制)構築に向けて、大学の持つ教育・研究・地域貢献機能を用いて参与し貢献する。

【センター活動内容】
看護職、介護職、ケアマネジャーなどを対象とした、教育活動としての現任教育プログラムの開講、専門職や地域住民を対象とした講演会の開催(28年度)。地域貢献として認知症サポーター養成の出前講座の開催、暮らしの保健室開設(27年度)など。



附属ものづくり創造工学センター

【施設目的】
ものづくり実践・実習教育の推進と創造型エンジニアの育成及びものづくりや科学技術に関するセミナー等を通して、地域社会へ貢献する

【センター活動内容】
学生自主プロジェクト、子どもものづくり教室、大人ものづくり教室、ライセンス講習会、ものづくりレクチャーシリーズ、能代宇宙イベント、テクノキャリアゼミ、ものづくりサライセンター



附属理工学研究センター

【施設目的】
理学と工学の融合により、環境・エネルギー・材料等の分野で、地域社会に役立ち、世界に発信できる研究を行う

【所属教員の研究分野】
磁性材料・磁気計測、無機環境材料、機能性薄膜作製プロセス、高温物理化学、生物学生化学、地球科学・鉱物学・環境、水資源・地表環境学、原子間力顕微鏡、岩石・同位体化学、超分子化学

附属地域防災力研究センター

【施設目的】
自然災害の防止・軽減に資する研究を推進するとともに、地域の防災・減災に関する研究と支援等を通して、安全・安心な地域社会の形成に貢献する

【研究部門等】
地震災害分野、津波災害分野、河川災害分野、斜面災害分野、火山災害分野、情報・計画分野

学内共同教育研究施設



● 生体情報研究センター

【設置目的等】

脂質、タンパク質、核酸等の生体情報分子に関わる特色ある研究活動の実施、国内外の関連機関と有機的な連携、ならびに国民との科学・技術対話の環境整備を行い、本学発の研究成果を継続的に地域と世界に発信する



● 情報統括センター

【設備等】

- 教育用PC(約400台): PC実習室1,2,4、PC実習室A/B、本道PC実習室、グループ学習コーナー、スキャナーコーナー、多言語コーナー、中央図書館、医学図書館
- 情報サービス: Webメール、大判プリンタ、大規模演算サーバ、仮想サーバホスティング
- 情報ネットワーク
有線LAN(フロアスイッチまで1~4Gbps)、無線LAN、学外接続ネットワーク(1Gbps)

● 産学連携推進機構

【設置目的等】

民間等外部の機関との共同研究を推進することにより、秋田大学の教育・研究の進展を図るとともに、研究成果の知的財産化及び知的財産の社会還元を促進し、社会における技術開発の振興及び技術発展に寄与する。

● 国際資源学教育研究センター

【設置目的等】

国際的視野を持つ高度資源開発人材の養成と我国の資源セキュリティ及び安定供給体制の確立に貢献するとともに、国際資源人材ネットワークを通して一層の国際交流及び国際貢献を図る。



● バイオサイエンス教育・研究サポートセンター

【設備等】

- 動物実験部門: 【飼育設備】マウス、ラット、モルモット、ウサギ、ネコ、イヌ、ブタなどに対応【特殊実験設備】感染動物実験室、ケミカルハザード実験室など【解析機器】超音波イメージングシステム、in vivo 発光・蛍光イメージングシステム、X線テレビジョンシステムなど【研究支援業務】生殖工学的技術支援(凍結保存、個体作製)、遺伝子改変動物の作出、動物実験手技の指導など
- 放射性同位元素部門: 【設備】サーベイメータ、液体シンチレーションカウンター、スキャナタイプ画像解析装置など【使用承認核種】 ^{32}P 、 ^3H 、 ^{125}I など15核種【実験サポート体制】RI業務従事者の実験を部門職員が受託するサービス有り(応相談)
- 分子医学部門: 【設備】次世代シーケンサー、共焦点レーザー顕微鏡、透過型電子顕微鏡、フローサイトメーター、LC/MS装置、遠心機各種、分光光度計類【受託】組織標本作製、遺伝子解析、電顕標本作製、細胞分取、質量分析
- 教育研究連携部門



● 放射性同位元素センター

【設備等】

- 非密封線源実験エリア: -10°C 及び 4°C 低温実験室、オークリッジフード3基及び安全キャビネット1基、液体シンチレーションカウンター、トリチウムガス計測・実験装置、各種スケラ、サーベイメータ、プレートアナライザ
- 密封線源実験エリア: マルチチャンネル γ 線スペクトルメータ、高速液体クロマトグラフ質量分析装置、イメージアナライザ、水平型X線回折装置

16種類の非密封線源及び5種類の密封線源が使用可能



● 環境安全センター

【設備等】

- 廃液処理棟: 無機系廃液-フェライト化処理、有機系廃液/有害固形廃棄物-噴霧燃焼/焼却処理、水銀・シアン系廃液-酸化分解・吸着処理、フッ素・リン酸系廃液-石灰化処理、COD廃液-フェントン処理
- 実験・分析棟: ガスクロマトグラフ/質量分析計、ガスクロマトグラフ、原子吸光度計、液体クロマトグラフ、X線分析装置、その他必要機器



● 地方創生センター1号館

【設備等】(センター内設置の秋田産学官共同研究拠点センター導入機器)
 超純水製造装置、ドラフトチャンバー、マイクロウェーブ試料前処理システム、超高分解能電界放射型走査型電子顕微鏡、炭素・水素・窒素・硫黄・酸素全自動分析装置、フレーム/ファーネス高分解能連続光源原子吸光分析装置、元素分析装置、高分解能核磁気共鳴スペクトル装置(600MHz)、X線光電子分光分析装置、マイクロフォーカスX線CT透視装置、水銀ポロシメータ、超高速液体クロマトグラフィシステム、光散乱GPC分子量測定装置、テラヘルツ分光測定装置、パイボラ電源、活性汚泥処理装置、スプレードライヤ装置、比表面積・細孔径分布測定装置、触媒分析装置、リアルタイムPCRシステム、マルチラベルカウンター、回転式粘度計、四重極-飛行時間型MS/MS分析システム、ガス吸着量測定装置、モジュール式電気化学測定システム、共焦点レーザー走査型顕微鏡、マトリックス支援レーザー脱離イオン化法飛行時間型質量分析装置、ハイオクリンベンチ

● 地方創生センター

【設置目的等】
 地方創生に取り組む地(知)の拠点大学として、地域との協働による地域振興策の取組及び地域の防災等に関する研究・支援並びに地域の産業を成長させる研究を推進させ、もって地域を担う人材育成を推進し、地域の産業振興と活性化に貢献する。

● 地方創生センター2号館

【設備等】
 ● 新リサイクル技術・評価システム:粒子径・表面電位解析装置、イオンクロマトグラフ、形状測定マイクロスコープ、走査型プローブ顕微鏡、ICP発光分光分析装置、示差熱天秤、ディスク型手動粉砕機、ロール型磁選機、レーザーデータ電位計、エリーズ非鉄金属選別器、真空アーク溶解炉、蛍光X線分光分析装置、金属分散度測定装置、空気テーブル、湿式高磁力磁選機など
 ● 高度機能素材設計・評価システム:電界放射型走査電子顕微鏡、多層構造膜作製装置、多元合金膜作製装置、走査電子顕微鏡、高真空型走査プローブ顕微鏡、高感度磁化測定装置、高真空熱処理装置、薄膜X線回折装置、粉末X線回折装置、磁気記憶装置材料分析・評価システム、ナノ粒子粒径解析/ゼータ電位計、液体窒素製造装置、表面粗さ測定装置など

センター

Center for Education and Research

	設置目的等
評価・IRセンター	<ul style="list-style-type: none"> ● 秋田大学における自己点検・評価活動とその改善努力の支援 ● 評価とそのシステムについての研究・開発 ● 学内外の各種情報の活用・分析
教育推進総合センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進 ● 教養基礎教育及び専門教育の調査・研究・開発による改善・充実
学生支援総合センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 種々の生活相談及び授業料免除や奨学生推薦等の生活支援 ● 大学祭等の課外活動支援及び課外活動施設の整備・充実の推進 ● 就職ガイダンスの実施及び就職情報提供等の就職活動支援
高大接続センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校と大学の学びの接続 ● アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜方法の研究・開発 ● 入学希望者に対する広報活動の企画・立案
教員免許状更新講習推進センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員免許状更新講習の企画・実施 ● 秋田県教育委員会・県内大学等諸機関との連携
国際交流センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際交流に関する企画・広報活動 ● 国際学術交流の推進 ● 国際教育交流の推進

技術組織

Technological Organization

	設置目的等
総合技術部	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育研究活動の技術支援を全学的に推進 ● 技術系職員が持つ専門技術を本学の共通の財産として継承・発展させ、その能力及び資質等の向上を図るとともに優れた人材を確保

福利厚生施設等

Welfare Facilities

施設	主な設備内容			
保健管理センター	学生相談室、休養室、診察室、処置室、エックス線室、待合ホール、聴力検査室、心電図室、カウンセリング室、検査室、所長室、准教授室、事務室、倉庫、多目的W.C.			
大学会館(クレール) 〈手形キャンパス〉	<ul style="list-style-type: none"> ●1階／管理事務室、食堂、厨房、喫茶室、食品・弁当コーナー、アメニティコーナー、アルバイトセンター、自販機コーナー、イベントホール ●2階／研修室(1・2・3)、和室(あじさい・りんどう)、会議室、書籍・文具・旅行コーナー 			
本道会館(メディココ) 〈本道キャンパス〉	<ul style="list-style-type: none"> ●1階／食堂、厨房、売店、事務室、倉庫 ●2階／研修室、談話室、大会議室、小会議室、和室、物品庫 			
学 生 寮	区 分	手形寮(女子) (留学生除く)	本道寮(女子) (留学生除く)	西谷地寮(男子) (留学生含む)
	建物延面積	746㎡	1,076㎡	3,171㎡
	室 数	40室	31室	130室
	収容定員	40人	31人	130人
国際交流会館	<ul style="list-style-type: none"> ●居 室／単身室(外国人留学生用28室、外国人研究者室5室)、家族室(外国人研究者用2室)、夫婦室(外国人研究者用3室) ●管理関係／管理室、設備室、倉庫 ●共用関係／多目的ホール、ミーティングルーム、洗濯室 			
留学生会館	<ul style="list-style-type: none"> ●居室／単身室(27室)、夫婦室(3室) ●管理関係／事務室、機械室、倉庫 ●共用関係／談話室、和室、洗濯室 			



体育施設

Sports Facilities

施設	面 積(㎡)			備 考
	手形地区	本道地区	保戸野地区	
陸上競技場	24,637	} 20,909	—	400m/6コース、メイン/8コース
野球場	20,378		—	—
球技場	陸上競技場 と併用	陸上競技場と 併用	—	サッカー、ラグビー(本道地区はサッカー、 ラグビー、アーチェリー、準硬式野球)
ハンドボール場			—	—
大体育館	2,591	1,079	3,588	バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、 バドミントン、柔道、剣道 等 (本道地区はバレーボール、バドミントン、 バスケットボール、卓球、フットサル)
小体育館	750	—	—	体操、卓球、空手道 等
柔剣道場(武道場)	—	—	373	柔道、剣道
弓道場	149	—	—	的場(44㎡)は含まない
テニスコート	(5面)3,238	(5面)3,614	—	—
プール(25m)	800	—	—	7コース
運動場	—	—	14,923	—



東京サテライト

Tokyo Satellite

受験生への情報提供を行うとともに、産学官連携の推進や首都圏での社会貢献活動を行うための拠点として「秋田大学東京サテライト」を設置しています。

〈業務紹介〉

1. 受験生への情報提供

- 入試説明会、各学校への情報の提供、訪問活動

2. 産学官連携活動の支援

- 共同研究、科学技術相談の窓口 ●学術情報、技術シーズの提供
- シンポジウム、学会、研究会などの学会会議の開催
- 研究者、研究成果の紹介

3. 社会貢献活動の支援

- 講演会、セミナーなどの開催

4. 就職活動の支援

- 企業からの求人の申込 ●在学生への就職情報の提供

5. 同窓会活動の支援

- 同窓会への大学情報などの提供

- 所在地 〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター 606号室
- TEL 03-5440-9104(FAX兼用)
- ホームページ <http://www.akita-u.ac.jp/honbu/satellite/>



キャンパス・イノベーションセンター

横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校

秋田大学の県内への情報発信と、より密接な地域連携を目指して、横手市、北秋田市、男鹿市へそれぞれ分校を開設しています。

横手分校

〈平成21年8月5日開設〉

- 学生による「いぶりがっこ」の製造をはじめとする地域活動への学生参加など地域課題の解決に向けた取り組みを実施しています。
- 教師を目指す学生たちを対象とした「教育ミニミニ実習」などの小中高大連携事業を推進しています。

- 連絡先
〒013-0036 横手市駅前町1-21
横手市交流センター Y²びらざ内
- TEL 0182-38-8304
- FAX 0182-32-4056

北秋田分校

〈平成22年11月17日開設〉

- 農薬と化学肥料を使わない昔ながらの農法で、作付けから収穫までの作業工程を一貫して行う「ふるさとの風景に学ぶ -米づくりで紡ぐ心と自然-」事業を実施しています。
- 小中学生を対象とした科学教室を開催しています。

- 連絡先
〒018-3392 北秋田市花園町19-1
北秋田市役所総務部総務課総務班
- TEL 0186-62-1111
- FAX 0186-63-2586

男鹿なまはげ分校

〈平成25年9月30日開設〉

- 学生力を活用し、子どもたちへの自学自習支援や医学部訪問事業を行い、学力の底上げに取り組んでいます。
- 首都圏大学の文化系・体育系クラブの宿泊合宿誘致を通じ、交流人口増加による地域活性化に取り組んでいます。

- 連絡先
〒010-0595 男鹿市船川港船川字泉台66-1
男鹿市総務企画部 企画政策課
- TEL 0185-24-9126
- FAX 0185-23-2424

インフォメーションセンター

Information Center

秋田大学の教育・研究の取り組みや、常設展示として成田為三・南木佳士など著名な卒業生の業績や作品等を展示・紹介。また、学生や教職員による企画展も開催しています。

〈入館案内〉

- 開館時間／10:30～17:00
- 開館日／平日のみ(入館無料)



インフォメーションセンター外観



オープン
スペースの
様子

〈主な常設展示〉



なりた ためぞう
成田 為三

秋田県師範学校(教育文化学部の前身)出身で、「浜辺の歌」「秋田県民歌」など、300曲以上の優れた作品を世に残しています。本格的に作曲の勉強をしたのは、秋田県師範学校時代であることが研究により明らかにされています。



なぎ けいし
南木 佳士

秋田大学医学部の第二期生である彼は、長野県佐久総合病院で医師を続けながら、作家活動を行っています。作品には、新設間もない秋田大学医学部を舞台に、医学部在学の4人の主人公が抱える悩みや葛藤などの青春群像を描いた「医学生」や、第100回芥川賞を受賞した「ダイヤモンドダスト」等があります。



まつだ ときこ
松田 解子

秋田県女子師範学校(教育文化部の前身)出身の小説家で、数多くの作品を世に残しています。1966年、実母をモデルに荒川鉦山に生きた人々を描いた長編「おりん口伝」の連載を始め、この作品で第8回田村俊子賞(1968年)等を受賞しました。



あべ まさたつ
阿部 雅龍

工学資源学部出身の「夢を追う男」冒険家として活躍。大学在学時から自転車での南米縦断やアマゾン川いかだ下りなど、数々の冒険を成し遂げてきました。現在、2017年の南極大陸単独走行1,500kmを目標に活動を続けています。

〈主な企画展〉



OBIによる講演会



学生による企画展



サークル企画展

平成29年度 主な課外行事

Main Extracurricular Events(Academic Year of 2017)

(第68回)東北地区大学体育大会 (5月～11月)

東北地区の国・公・私立の48大学による体育大会で、各県分担し、男女合わせて22種目の競技が行われます。



サークルリーダー研修会 (9月下旬)

課外活動団体のリーダーを中心に日々の活動に必要な知識やAED(自動体外式除細動器)の取扱い方法を修得させるとともに、参加者相互の交流や討論を深めるため、毎年実施しています。



大学祭 (10月14日(土)・15日(日))

各学部間の交流、また学生と教職員や一般市民との交流を深めることを目的として毎年実施し、学内外を問わず親しまれている行事です。



全学駅伝競走大会 (11月4日(土))

学生同士や、学生と教職員との交流を深め、スポーツマン精神を養うことを目的に、例年男女合わせて30チームほどが健脚を競っています。応援を含めて全学が熱狂する行事です。



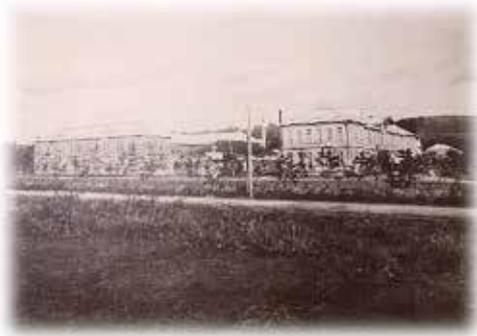
※日程については、変更になる場合もあります。

資料編

- 沿革
- 歴代学長
- 運営組織
- 教育研究組織
- 事務組織
- 役職員
- 学生の定員・現員
- 入学志願者・入学状況
- 出身高校所在地別在学状況
- 卒業生・修了者数
- 学位授与数
- 卒業生等就職状況
- 平成28年度学生表彰等受賞者
- 外国人留学生数
- 外国人研究員等
- 国際交流協定校
- 公開講座(平成28年度)
- 国内機関との連携・協力協定
- 役員数
- 教職員数
- 平成29年度予算
- 外部資金受入状況
- 平成28年度科学研究費助成事業採択状況
- 土地・建物
- 各連絡先・所在地一覧
- 手形地区施設配置図
- 本道地区施設配置図／保戸野地区施設配置図
- アクセス

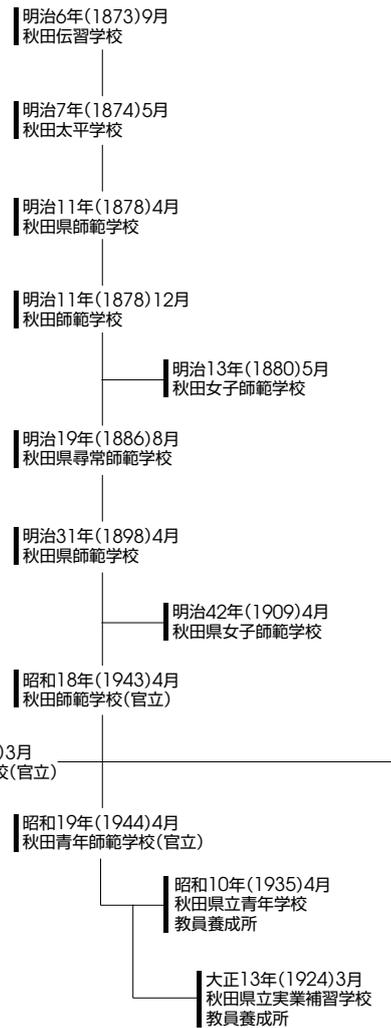
沿革

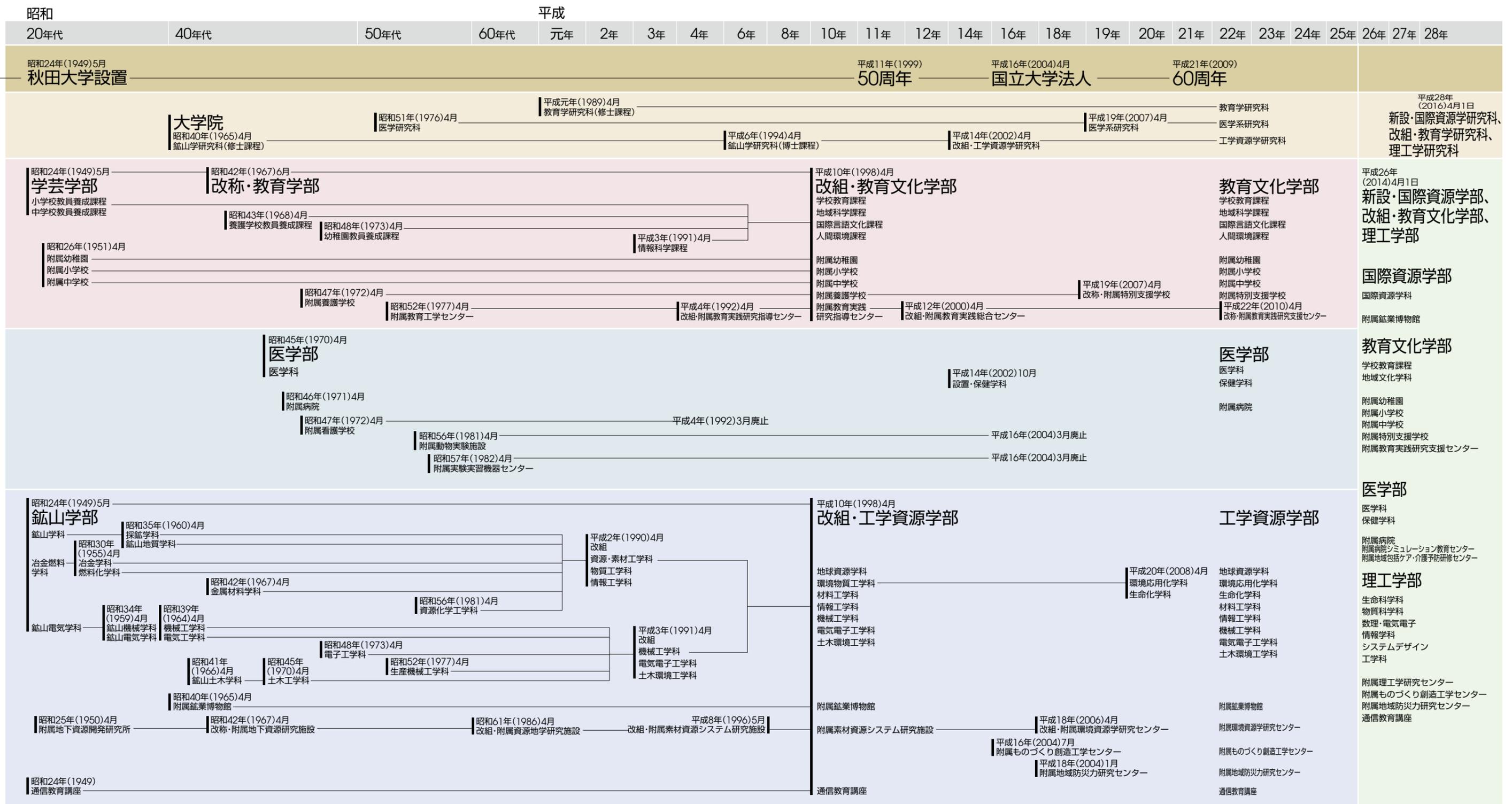
Historical Sketch



●百周年記念館(平成24年10月竣工)

工学資源学部創立100周年を記念し建造
秋田大学の前身である秋田鉱山専門学校の外観を再現





医療技術短期大学部

〈平成元年(1989)4月～平成19年(2007)3月〉

- 理学療法学科・作業療法学科
〈平成2年(1990)4月分離増設〉
- 【看護学科〈平成元年(1989)10月〉】

専攻科

- 鉱山学専攻科
〈昭和29年(1954)4月～昭和40年(1965)3月〉
- 教育専攻科
〈昭和40年(1965)4月～平成元年(1989)3月〉
- 特殊教育特別専攻科
〈昭和55年(1980)4月～平成20年(2008)3月〉

学内共同教育研究施設

- 産学連携推進機構〈平成19年(2007)11月〉
【知的財産本部〈平成16年(2004)4月〉+地域共同研究センター〈平成5年(1993)4月〉】
- 情報統括センター〈平成27年(2015)4月〉【情報処理センター〈昭和64年(1989)1月〉】
- バイオサイエンス教育・研究サポートセンター〈平成28年(2016)4月〉【バイオサイエンス教育・研究センター〈平成16年(2004)4月〉】
- 放射性同位元素センター〈昭和47年(1974)6月〉
- 環境安全センター〈平成16年(2004)4月〉
- 国際資源学教育研究センター〈平成21年(2009)10月〉
- 地方創生センター〈平成28年(2016)4月〉【地域創生センター〈平成23年(2011)4月〉+ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
〈平成13年(2001)5月〉+ベンチャーインキュベーションセンター〈平成24年(2012)10月〉】
- 生体情報研究センター〈平成24年(2012)4月〉

センター

- 評価・IRセンター〈平成29年(2017)4月〉
【評価センター〈平成16年(2004)4月〉】
- 教育推進総合センター〈平成16年(2004)4月〉
- 高大接続センター〈平成29年(2017)4月〉
- 教員免許状更新講習推進センター〈平成21(2009)4月〉
- 学生支援総合センター〈平成16年(2004)4月〉
- 国際交流センター〈平成20年(2008)2月〉
【国際交流推進機構〈平成16年(2004)4月〉】
- ※社会貢献推進機構
〈平成16年(2004)4月～平成21年(2009)3月〉

- 附属図書館
〈昭和24年(1949)5月〉
- 保健管理センター
〈昭和49年(1974)4月〉
- 地(知)の拠点推進本部
〈平成28年(2016)4月〉

歴代学長



佐野 秀之助
(昭25.5.6~昭30.12.24)



渡邊 萬次郎
(昭31.3.1~昭41.2.28)



伊藤 泰一
(昭41.3.1~昭44.6.9)



渡邊 武男
(昭46.2.23~昭51.2.22)



九嶋 勝司
(昭51.2.23~昭56.2.22)



梅津 良之
(昭56.2.23~昭61.2.22)



渡部 美種
(昭61.2.23~平3.2.22)



新野 直吉
(平3.2.23~平8.2.22)



徳田 弘
(平8.2.23~平13.2.22)



三浦 亮
(平13.2.23~平20.3.31)



吉村 昇
(平20.4.1~平26.3.31)



澤田 賢一
(平26.4.1~平28.3.1)



山本 文雄
(平28.4.1~)

事務
取扱

劔木 亨弘
(昭24.5.31~昭24.7.30)

池田 謙三
(昭24.7.31~昭25.5.5)

五十嵐 勇
(昭30.12.25~昭31.2.29)

藤島 主殿
(昭44.6.10~昭46.2.22)

学長
代行

小川 信明
(平28.3.2~平28.3.31)

経営協議会

(15人)
Management Committee

経営に関する重要事項を審議

学長

理事(総務・情報・病院経営担当)

理事(地方創生・研究担当)

理事(財務・施設・環境担当)

理事(企画担当)〈非常勤〉

医学部附属病院長

副学長(評価・IR担当)

学外委員(8人)

役員会

(6人)
Board of Directors

経営、教学の両面にわたり、
特定の重要事項について、
学長の意思決定に先立ち議決

学長

理事(総務・情報・病院経営担当)

理事(地方創生・研究担当)

理事(教育・学生・入試担当)

理事(財務・施設・環境担当)

理事(企画担当)〈非常勤〉

監事

(2人)
〈うち、非常勤1人〉
Auditors

教育研究評議会

(21人)
Education and
Research Council

教育に関する重要事項を審議

学長

理事(総務・情報・病院経営担当)
(兼)情報統括センター長

理事(地方創生・研究担当)

理事(教育・学生・入試担当)

副学長(評価・IR担当)

国際資源学研究科長

教育文化学部長

医学系研究科長

理工学研究科長

附属図書館長

医学部附属病院長

産学連携推進機構長

教育推進主管

各学部長等が推薦する
当該学部等の教授

学長選考会議

(12人)
President Nomination Committee

経営協議会の学外委員で、経営協議会において選出された者(5人)

国際資源学研究科長／教育文化学部長／医学系研究科長／理工学研究科長／副学長(評価・IR担当)

理事(総務・情報・病院経営担当)／理事(財務・施設・環境担当)

大学運営会議

(12人)

学長

理事(総務・情報・病院経営担当)／理事(地方創生・研究担当)／理事(教育・学生・入試担当)／理事(財務・施設・環境担当)

副学長(評価・IR担当)

国際資源学研究科長／教育文化学部長／医学系研究科長／理工学研究科長／附属図書館長／医学部附属病院長

教育研究組織

Academic Organization

秋田大学
Akita University



役職員

Administrative Staff

役員等

学長	山本 文雄
理事(総務・情報・病院経営担当)・副学長	近藤 克幸
理事(地方創生・研究担当)・総括副学長	小川 信明
理事(教育・学生・入試担当)・副学長	四反田 素幸
理事(財務・施設・環境担当)	金城 正浩
理事(企画担当)(非常勤)	関根 近子
監事	真鍋 雅文
監事(非常勤)	吉岡 順子
副学長(評価・IR担当)	神谷 修
副学長(国際戦略担当)	佐藤 時幸
副学長(病院担当)	羽瀧 友則
副学長(地域医療福祉政策担当)	伊藤 宏

学長補佐

学長補佐(ハラスメント担当)	中村 雅英
学長補佐(男女共同参画担当)	山名 裕子
学長補佐(産学連携担当)	長縄 明大
学長補佐(医理工連携担当)	島田 洋一
学長補佐(地域協働担当)	志立 正知
学長補佐(地域産業担当)	田島 克文
学長補佐(国際交流担当)	藤井 光
学長補佐(評価担当)	上田 晴彦
学長補佐(長寿・健康研究教育拠点担当)	伊藤 英晃

経営協議会

学長	山本 文雄
理事(総務・情報・病院経営担当)	近藤 克幸
理事(地方創生・研究担当)	小川 信明
理事(財務・施設・環境担当)	金城 正浩
理事(企画担当)(非常勤)	関根 近子
医学部附属病院長	羽瀧 友則
副学長(評価・IR担当)	神谷 修
秋田魁新報社代表取締役社長	小笠原 直樹
秋田県医師会顧問	小山田 雅
東京国立博物館館長	銭谷 眞美
秋田銀行相談役	藤原 清悦
東北大学名誉教授	吉本 高志
秋田県教育委員会教育長	米田 進
秋田県看護協会会長	高島 幹子
東北電力執行役員秋田支店長	工藤 和典

教育研究評議会

学長	山本 文雄
理事(総務・情報・病院経営担当)(兼)情報統括センター長	近藤 克幸
理事(地方創生・研究担当)	小川 信明
理事(教育・学生・入試担当)	四反田 素幸
副学長(評価・IR担当)	神谷 修
国際資源学研究科長	佐藤 時幸
教育文化学部長	武田 篤
医学系研究科長	尾野 恭一
理工学研究科長	村岡 幹夫
附属図書館長	今野 和彦
医学部附属病院長	羽瀧 友則
産学連携推進機構長	長縄 明大
教育推進主管	後藤 猛
国際資源学研究科教授	柴山 敦
国際資源学研究科教授	宮本 律子
教育文化学部教授	上田 晴彦
教育文化学部教授	佐々木 和貴
医学系研究科教授	南谷 佳弘
医学系研究科教授	兒玉 英也
理工学研究科教授	山村 明弘
理工学研究科教授	田島 克文

大学戦略室

室長	近藤 克幸
----	-------

本部等

副理事(総務担当)	大谷 智
副理事(国際担当)(兼)国際課長(兼)危機管理調整役	高橋 康弘

本部等

副理事(財務・施設・環境担当)	田島 修
監査室長	柴田 広実
総務企画課長	菅原 章
人事課長(兼)能力開発室長	中井 正宏
広報課長	稲葉 倫子
図書館・情報推進課長	猿田 悌弘
地方創生・研究推進課長	大山 弘
総合学務課長	高橋 正樹
学生支援・就職課長	藤井 和明
入試課長	工藤 晃義
財務課長	戸島 隆造
経理・調達課長	森 清幸
施設企画課長	榎屋 昭則
施設保全課長	田牧 貴教

センター・機構等

産学連携推進機構長	長縄 明大
情報統括センター長	近藤 克幸
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター長	久場 敬司
放射性同位元素センター長	寺境 光俊
環境安全センター長	進藤 隆世志
国際資源学教育研究センター長	川村 洋平
生体情報研究センター長	石井 聡
地方創生センター長	小川 信明
評価・IRセンター長	神谷 修
教育推進総合センター長	四反田 素幸
学生支援総合センター長	四反田 素幸
高大接続センター長	四反田 素幸
教員免許状更新講習推進センター長	森 和彦
国際交流センター長	佐藤 時幸
保健管理センター所長	伏見 雅人
地(知)の拠点推進本部長	山本 文雄
教育推進主管	後藤 猛

附属図書館

館長	今野 和彦
医学部分館長	河谷 正仁

国際資源学研究科

研究科長	佐藤 時幸
事務長	大川 卓男
附属鉱業博物館長	今井 忠男

教育文化学部

学部長	武田 篤
事務長	柳谷 勉
附属教育実践研究支援センター長	佐藤 修司
附属幼稚園長	奥山 順子
附属小学校長	成田 雅樹
附属中学校長	川村 教一
附属特別支援学校長	長瀬 達也

医学系研究科

研究科長	尾野 恭一
附属病院長	羽瀧 友則
附属地域包括ケア・介護予防研修センター長	中村 順子
事務部長	原 忠篤
総務課長	脇元 直彦
企画管理課長	高橋 尚之
調達課長	太田 貞祐
学務課長	藤原 孝
医事課長	針金 誠悦

理工学研究科

研究科長	村岡 幹夫
事務長	田村 悟
附属理工学研究センター長	齊藤 準
附属ものづくり創造工学センター長	田子 真
附属地域防災力研究センター長	松富 英夫

学生の定員・現員

〈学部〉

平成29年5月1日現在

学部	学科・課程	入学定員	収容定員	現 員						計
				1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
国際資源学部	国際資源学科	120	480	127	130	110	114			481
	小 計	120	480	127	130	110	114			481
教育文化学部	学校教育課程	110	440	112	122	130	118			482
	地域文化学科	100	400	101	106	108	94			409
	地域科学課程					2	4			6
	国際言語文化課程	※1				1	11			12
	人間環境課程					2	1			3
	小 計	210	840	213	228	243	228			912
医学部	医学科	<5>124	759	131	126	132	122	123	133	767
	保健学科	(14)106	452	123	114	110	114			461
	小 計	<5> (14)230	1,211	254	240	242	236	123	133	1,228
理工学部	生命科学科	45	180	46	46	39	36			167
	物質科学科	110	440	120	117	108	103			448
	数理・電気電子情報学科	120	480	133	136	143	110			522
	システムデザイン工学科	120	480	145	124	143	122			534
	各学科共通	12	24							
	小 計	(12)395	1,604	444	423	433	371			1,671
工学資源学部	地球資源学科	※1				2	5			7
	環境物質工学科	※1								
	環境応用化学科					1	9			10
	生命化学科					1	4			5
	材料工学科					5	8			13
	情報工学科					1	4			5
	機械工学科	※1				5	10			15
	電気電子工学科					2	7			9
	土木環境工学科					2	2			4
	各学科共通									
	小 計					19	49			68
合 計	<5> (26)955	4,135	1,038	1,021	1,047	998	123	133		4,360

※()内の数は3年次編入学定員を表し、外数である。 ※< >内の数は2年次編入学定員を表し、外数である。

〈大学院〉

平成29年5月1日現在

研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員				計
				1年次	2年次	3年次	4年次	
国際資源学 研究科	資源地球科学専攻	17	34	18	10			28
	資源開発環境学専攻	23	46	17	16			33
	小 計	40	80	35	26			61
	博士前期課程							
	博士後期課程							
	資源学専攻	10	20	8	5			13
	計	50	100					74
教育学研究科	教職実践専攻	20	40	23	18			41
	専 攻	入学定員	収容定員	現 員				計
	心理教育実践専攻	6	12	6	6			12
	学校教育専攻	※1			1			1
	教科教育専攻							0
	小 計	6	12	6	7			13
	計	26	52					54
医学系研究科	医科学専攻	5	10	1	2			3
	専 攻	入学定員	収容定員	現 員				計
	保健学専攻	12	24	13	18			31
	専 攻	入学定員	収容定員	現 員				計
	保健学専攻	3	9	3	4	4		11
	専 攻	入学定員	収容定員	博 士 課 程				計
	医学専攻	30	120	27	26	20	86	159
	計	50	163					204
理工学研究科	生命科学専攻	15	30	15	7			22
	物質科学専攻	42	84	36	29			65
	数理・電気電子情報学専攻	45	90	50	45			95
	システムデザイン工学専攻	36	72	36	34			70
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻	12	24	12	12			24
	小 計	150	300	149	127			276
	専 攻	入学定員	収容定員	博 士 後 期 課 程				計
総合理工学専攻	10	20	13	7			20	
	計	160	320					296
工学資源学 研究科	地球資源学専攻	※1			2			2
	環境応用化学専攻				3			3
	生命科学専攻							
	材料工学専攻				1			1
	情報工学専攻				1			1
	機械工学専攻				1			1
	電気電子工学専攻				1			1
	土木環境工学専攻							
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻				1			1
	小 計				10			10
	専 攻	入学定員	収容定員	博 士 後 期 課 程				計
	資源学専攻			1年次	2年次	3年次		
	生命科学専攻			4	6	10		16
生命化学専攻			3				3	
機能物質工学専攻			3		3		2	
生産・建設工学専攻			3		1	1	6	
電気電子情報システム工学専攻			3		2	4	27	
小 計			16		9	18	37	
	計		16					
合 計		286	651					665

入学志願者・入学状況

出身高校所在地別在学状況

〈学部〉

平成29年度

区 分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
国際資源学部	120	271	102	373	95	25	120	3.11
教育文化学部	210	366	504	870	80	132	212	4.14
医学部	230	552	691	1243	99	141	240	5.40
理工学部	395	894	238	1132	337	71	408	2.87

※外国人留学生を含まない(但し、国際資源学部の私費外国人留学生は含む)。編入生を含まない。

〈大学院〉

平成29年度

区 分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
国際資源学研究科(博士前期課程)	40	27	7	34	25	6	31	0.85
国際資源学研究科(博士後期課程)	10	4	0	4	4	0	4	0.40
教育学研究科(専門職学位課程)	20	23	5	28	18	5	23	1.40
教育学研究科(修士課程)	6	5	6	11	2	4	6	1.80
(修士課程) 医科学専攻	5	1	0	1	1	0	1	0.20
(博士前期課程) 保健学専攻	12	5	8	13	5	8	13	1.08
(博士後期課程) 保健学専攻	3	2	1	3	2	1	3	1.00
(博士課程) 医学専攻	30	18	10	28	17	10	27	0.93
理工学研究科(博士前期課程)	150	143	14	157	129	14	143	1.05
理工学研究科(博士後期課程)	10	9	1	10	8	1	9	1.00

※国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を除く(但し、国際資源学研究科において、国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を含む)。

〈学生総数(学部学生)〉 平成29年5月1日現在

	人数	%	
北海道	135	3.2	
東北 2,576 (61.5%)	青森	229	5.5
	岩手	308	7.4
	秋田	1,613	38.5
	宮城	181	4.3
	山形	161	3.8
	福島	84	2.0
関東	798	19.0	
中部	559	13.3	
近畿	58	1.4	
中国	21	0.5	
四国	11	0.3	
九州	34	0.8	
学生総数	4,192		

※学生総数は、国内の高校出身者の合計である。

〈医学部〉

平成29年5月1日現在

	人数	%	
北海道	36	3.0	
東北 635 (53.4%)	青森	30	2.5
	岩手	88	7.4
	秋田	425	35.8
	宮城	51	4.3
	山形	30	2.5
	福島	11	0.9
関東	365	30.7	
中部	115	9.7	
近畿	18	1.5	
中国	4	0.3	
四国	2	0.2	
九州	14	1.2	
計	1,189		

〈国際資源学部〉

平成29年5月1日現在

	人数	%	
北海道	22	4.8	
東北 207 (45.5%)	青森	25	5.5
	岩手	33	7.3
	秋田	95	20.9
	宮城	21	4.6
	山形	17	3.7
	福島	16	3.5
関東	107	23.5	
中部	81	17.8	
近畿	18	4.0	
中国	10	2.2	
四国	2	0.4	
九州	8	1.8	
計	455		

〈理工学部〉

平成29年5月1日現在

	人数	%	
北海道	59	3.7	
東北 920 (57.6%)	青森	125	7.8
	岩手	140	8.8
	秋田	476	29.8
	宮城	72	4.5
	山形	64	4.0
	福島	43	2.7
関東	270	16.9	
中部	308	19.3	
近畿	21	1.3	
中国	6	0.4	
四国	4	0.3	
九州	8	0.5	
計	1,596		

〈教育文化学部〉

平成29年5月1日現在

	人数	%	
北海道	18	2.0	
東北 773 (87.3%)	青森	42	4.7
	岩手	40	4.5
	秋田	596	67.3
	宮城	36	4.1
	山形	46	5.2
	福島	13	1.5
関東	47	5.3	
中部	42	4.8	
近畿	1	0.1	
中国	1	0.1	
四国	2	0.2	
九州	2	0.2	
計	886		

〈工学資源学部〉

平成29年5月1日現在

	人数	%	
北海道	0	0.0	
東北 41 (62.1%)	青森	7	10.6
	岩手	7	10.6
	秋田	21	31.8
	宮城	1	1.5
	山形	4	6.1
	福島	1	1.5
関東	9	13.7	
中部	13	19.7	
近畿	0	0.0	
中国	0	0.0	
四国	1	1.5	
九州	2	3.0	
計	66		

卒業生・修了者数

〈学部・大学院・専攻科〉

学部			大学院			専攻科	
区分	28年度	累計	区分	28年度	累計	区分	累計
教育文化学部	294	4,749	教育学研究科(修士課程)	28	884	教育専攻科	78
教育学部		14,519	教育学研究科(専門職学位課程)	4	4	特殊教育特別専攻科	212
医学部	234	5,317	医学系研究科(修士課程)	1	61		
			医学系研究科(博士前期課程)	11	80		
			医学系研究科(博士後期課程)	5	22		
			医学系研究科(博士課程)	27	152		
			医学研究科		791		
理工学部	3	3	理工学研究科(博士前期課程)	1	1	鉱山学専攻科	58
工学資源学部	464	7,424	工学資源学研究科(博士前期課程)	165	2,014		
			工学資源学研究科(博士後期課程)	13	128		
鉱山学部		14,522	鉱山学研究科(修士課程)		1,270		
			鉱山学研究科(博士前期課程)		1,012		
			鉱山学研究科(博士後期課程)		123		
計	995	46,534	計	255	6,542	計	348

【注】※鉱山学専攻科…昭和40年3月廃止 ※教育専攻科…平成元年3月廃止 ※鉱山学研究科(修士課程)…平成9年3月廃止
 ※教育学部…平成10年4月教育文化学部に改組・改称 ※鉱山学部…平成10年4月工学資源学部に改組・改称
 ※鉱山学研究科…平成14年4月工学資源学研究科に改組・改称 ※特殊教育特別専攻科…平成20年3月廃止
 ※医学研究科…平成19年4月医学系研究科に改組・改称

〈医療技術短期大学部〉

区分	看護学科	理学療法学科	作業療法学科
累計	1,015	246	254

【注】※医療技術短期大学部…平成19年3月廃止

平成29年5月1日現在

学位授与数

区分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	累計
教育学研究科	修士(教育学)	29	34	24	31	28	884
	教職修士(専門職)					4	4
	小計	29	34	24	31	32	888
医学系研究科	修士(医科学)	4	0	0	3	1	24
	修士(看護学)	5	6	6	4	7	58
	修士(リハビリテーション科学)	5	7	8	7	4	59
	博士(保健学)(課程)	4	3	4	3	5	22
	博士(医学)(課程)	23	24	25	23	27	154
	博士(医学)(論文)	1	4	3	4	0	27
	小計	42	44	46	44	44	344
医学研究科	博士(医学)(課程)	4	3				806
	博士(医学)(論文)	0	0				574
	小計	4	3				1,380
理工学研究科	修士(理学)					1	1
工学資源学研究科	修士(工学)	159	134	101	145	136	1,920
	修士(資源学)	4	3	6	6	14	47
	修士(理学)		8	13	11	15	47
	博士(工学)(課程)	10	10	8	7	9	120
	博士(資源学)(課程)	0	0	1	0	2	5
	博士(理学)(課程)				1	2	3
	博士(工学)(論文)	0	2	0	1	0	11
	博士(資源学)(論文)	0	0	0	0	0	1
	博士(理学)(論文)				0	0	0
	小計	173	157	129	171	178	2,154
鉱山学研究科	修士(工学)						2,252
	修士(資源学)						30
	博士(工学)(課程)						117
	博士(資源学)(課程)						6
	博士(工学)(論文)						31
小計						2,436	
合計		248	238	199	246	255	7,203

卒業生等就職状況

区分	卒業生数	進学者数	就職者数		産業別就職者数																				その他(産業界)	未就職者									
			県内	県外	農林・水産業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス等	情報通信業	運輸・郵便業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	学術研究・開発サービス業	宿泊・飲食業	医療福祉	学校教育									教育学習支援業	複合サービス業	サービス業	公務員					
																		教員												特別支援学校	その他(教員)	教員の計	教員以外	国	地方
			幼稚園	小学校	中学校	高等学校	高等専門学校	特別支援学校	その他(教員)																										
学部	教育学部	294	23	255	-	-	4	5	-	13	8	18	30	1	-	2	8	5	37	30	9	-	15	-	96	1	3	1	17	13	35	48	-	12	4
	医学部	234	2	224	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	224	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-
	工学部	464	180	269	2	4	38	85	9	33	6	5	14	-	11	1	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	4	4	48	52	1	13	2
	理学部	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小計	995	208	748	2	4	42	90	9	46	14	23	44	1	11	3	234	5	37	30	10	0	15	0	97	1	4	1	21	17	83	100	1	33	6
大学院	教育学研究科	32	-	28	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	6	2	9	-	4	1	22	-	-	-	1	-	2	2	-	4	-
	医学系工学資源学研究所	44	-	43	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	37	-	-	-	5	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	工学資源学研究所	178	12	156	-	5	13	85	9	16	-	3	-	-	10	-	1	-	-	1	4	-	1	6	-	-	1	2	1	3	4	1	10	-	-
	理学系工学資源学研究所	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小計	255	13	227	0	5	13	85	9	16	0	4	1	0	10	0	40	0	6	2	10	9	4	2	33	0	0	1	3	1	5	6	1	15	0
合計	1250	221	975	2	9	55	175	18	62	14	27	45	1	21	3	274	5	43	32	20	9	19	2	130	1	4	2	24	18	88	106	2	48	6	

平成28年度学生表彰等受賞者

学生表彰被表彰者一覧<学術研究活動>

賞	氏名	所属	業績内容
優秀賞(個人)	佐藤 颯哉	工学資源学研究所 博士前期課程 地球資源学専攻 2年次	・平成28年9月に開催された第6回アジア・アフリカ鉱物資源会議において、"Revision of porphyry copper quartz veins of the El Salvador deposit, Chile"と題した発表によりベストポスター賞を受賞した。 ・その他原著論文1件、プロシーディングス2件、口頭発表2件、ポスター発表3件の研究代表者として発表を行った。
〃	門間 大樹	工学資源学研究所 博士前期課程 共同ライフサイクルデザイン工学専攻2年次	・原著論文が日本磁気学会誌に掲載されたことから、平成28年9月7日に日本磁気学会から学術奨励賞(内山賞)を受賞した。 ・また、2年間で合計4回の学会発表を行っている。
奨励賞(個人)	中西 真奈美	医学部医学科 4年次	・第121回日本解剖学会総会・全国学術集会学生セッションにおいて、「肘窩・前腕屈側における皮静脈と皮神経の交差についての研究」というタイトルでポスター発表を行い、優秀発表賞を受賞。
〃	丸藤 雅大	医学部医学科 5年次	・第89回日本薬理学会年会において、「インフルエンザウイルス感染症におけるマクロファージ由来のニューロペプチドY(NPY)の役割」について英語で口頭発表を行い、学生優秀発表賞を受賞。
〃	主濱 勇人	理工学研究科 博士前期課程 数理・電気電子情報学専攻 1年次	・平成28年9月15日に開催された日本分析化学会第65年会において、若手ポスター賞を受賞した。 ・また、平成28年12月1日には Infrared Physics & Technology (Impact Factor 1.588)に second author としての論文が掲載された。
〃	岸田 拓也	工学資源学研究所 博士前期課程 電気電子工学専攻2年次	・平成28年9月29日に開催された静電気学会全国大会において、「水平電極式動電法(FEM-EK法)を用いた汚染土壌の修復」と題した論文がHRSB賞を受賞した。 ・また、同上論文が静電気学会誌41巻1号に掲載されることが決定した。
〃	畠山 喜考	工学資源学研究所 博士前期課程 電気電子工学専攻2年次	・平成28年9月29日に開催された静電気学会全国大会において、「天然ゼオライトとくん炭を用いたフレキシブルイオン吸着電極の作製」と題した論文がHRSB賞を受賞した。 ・また、同上論文を静電気学会誌に投稿し、査読審査の結果を待っている状況である。
〃	保坂 儒人	工学資源学研究所 博士前期課程 電気電子工学専攻 2年次	・平成27年6月25日に開催された日本素材物性学会において、優秀論文発表賞を受賞した。また、平成28年6月23日の同学会では若手論文賞を受賞している。 ・平成28年7月19日に開催された計測自動制御学会東北支部研究会において、優秀発表奨励賞を受賞した。 ・平成29年3月16日開催予定の日本音響学会において、学生優秀発表賞を受賞することが決定している。 ・原著論文が日本画像学会誌に掲載されたほか、Acoustic Science and Technology誌に投稿し、採録通知を受けている。
〃	白井 光	工学資源学研究所 博士後期課程 電気電子情報システム工学専攻3年次	・平成28年9月8~12日に開催されたICISIP2016(The 4th IIAE International Conference on Intelligent Systems and Image Processing 2016)において、Best Student Paper Awardを受賞した。

平成28年度学生表彰等受賞者

学生表彰被表彰者一覧(課外活動関係)

賞	氏名	所属	種目/成績	大会名	所属団体
優秀賞 (個人)	広田有紀	医学部 医学科3年次	女子800m 第4位	第100回日本陸上競技選手権大会	陸上競技部
〃	藤井理美	医学部 医学科6年次	Aクラス女子 第1位	第36回国公立フリースケーティング競技会	医学部水上競技部
奨励賞 (団体)	医学部女子陸上競技部		女子団体総合3位	第73回全日本医歯薬獣医学大学対抗陸上競技選手権大会	
〃	医学部女子卓球部		女子団体優勝 大臣賞	第66回全日本医歯薬学生卓球大会	
奨励賞 (個人)	金川夏希	教育文化学部 地域文化学科2年次	女子白・緑帯の部 第1位	第45回少林寺拳法東北学生新人大会	少林寺拳法部
〃	斉藤千翔	教育文化学部 地域文化学科2年次	女子白・緑帯の部 第1位	第45回少林寺拳法東北学生新人大会	少林寺拳法部
〃	工藤唯花	教育文化学部 学校教育課程1年次	女子白・緑帯の部 第1位	第46回少林寺拳法東北学生新人大会	少林寺拳法部
〃	清野香菜子	教育文化学部 学校教育課程1年次	女子白・緑帯の部 第1位	第46回少林寺拳法東北学生新人大会	少林寺拳法部
〃	杉山智一	工学資源学部 機械工学科4年次	オープンⅢ・Ⅳ 優勝	東北学生自動車連盟杯競技会 ジムカーナ競技会	自動車部
〃	柳貴仁	工学資源学部 機械工学科4年次	オープンⅢ・Ⅳ 優勝	東北学生自動車連盟 平成28年度東北大学ジムカーナ	自動車部
〃	宇恵野智哉	工学資源学部 生命化学科4年次	男子ハンドボール ベスト7	第51回東北学生ハンドボール 春季リーグ戦(1部リーグ)	男子ハンドボ ール部
〃			男子ハンドボール 得点王	第61回東北学生ハンドボール 秋季リーグ戦(1部リーグ)	
〃	荒井航平	教育文化学部 学校教育課程3年次	男子ハンドボール ベスト7	第61回東北学生ハンドボール 秋季リーグ戦(1部リーグ)	男子ハンドボ ール部
〃	柴田菜津美	教育文化学部 人間環境課程4年次	女子ハンドボール ベスト7	第51回東北学生ハンドボール 春季リーグ戦(Aリーグ)	女子ハンドボ ール部
〃	洞口双葉	医学部 保健学科4年次	女子ハンドボール ベスト7	第61回東北学生ハンドボール 秋季リーグ戦(Aリーグ)	女子ハンドボ ール部
〃	阿部菜那	教育文化学部 学校教育課程4年次	女子57kg級 優勝	第32回東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部
〃	佐藤魁星	教育文化学部 学校教育課程1年次	男子81kg級 優勝	第35回東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部
〃	清水紗英	理工学部 生命科学科2年次	女子50m自由形 第1位	第9回北都学生選手権水泳競技大会	水泳部
〃	白井康太	理工学部 物質科学科2年次	男子新人戦 優勝	第22回東北学生基礎スキー技術 選手権大会	基礎スキー部
〃	八本直季	医学部 医学科4年次	男子800m, 男子1500m 第2位	第73回全日本医歯薬獣医学大学対抗 陸上競技選手権大会	医学部男子 陸上競技部
〃	渡邊瑞希	医学部 保健学科3年次	女子800m, 女子1500m 第2位	第73回全日本医歯薬獣医学大学対抗 陸上競技選手権大会	医学部女子 陸上競技部
〃	亀山雛子	医学部 医学科2年次	女子100m 第1位	第73回全日本医歯薬獣医学大学対抗 陸上競技選手権大会	医学部女子 陸上競技部
〃	小林奏絵	医学部 保健学科4年次	女子4×400m リレー 第3位	第73回全日本医歯薬獣医学大学対抗 陸上競技選手権大会	医学部女子 陸上競技部
〃	広田有紀	医学部 医学科3年次			
〃	渡邊瑞希	医学部 保健学科3年次			
〃	中村みのり	医学部 医学科4年次			
〃	坂本理々子	医学部 保健学科1年次	女子4×100m リレー 第3位	第73回全日本医歯薬獣医学大学対抗 陸上競技選手権大会	医学部女子 陸上競技部
〃	亀山雛子	医学部 医学科2年次			
〃	中村みのり	医学部 医学科4年次			
〃	広田有紀	医学部 医学科3年次			
〃	渡邊里奈	医学部 医学科4年次	女子ダブルス 優勝	第66回全日本医歯薬学生卓球大会	医学部 女子卓球部
〃	佐藤綾	医学部 医学科3年次			

賞	氏名・団体名	受賞内容	所属団体
奨励賞 (団体)	よさこいサークル よさとせ歌舞輝	平成28年度はサークル結成10周年にあたり、関係者への感謝とさらなる活動の発展を期して、7月18日にエリアなかいかいちにぎわい広場において、十周年記念イベントを企画・開催し、その様子が秋田魁新報に大きく取り上げられた。	

副学長表彰被表彰者一覧<教育活動関係>

賞	氏名	所属	業績内容	指導教員
教育活動(個人)	高橋 真里奈	教育文化学部 国際言語文化課程 3年次	-ALL ROOMsスタッフとして平成26年4月から生え抜きのALLROOMsスタッフとして活躍している。オーストラリアのグリフィス大学に留学した経験を生かし、ユーザーに高度な英語と異国文化の情報提供を続けている。現在3年生であるが、TOEICのスコアは945点に到達し、歴代で2位につけている。この圧倒的高得点により、ユーザーはもちろんALL ROOMsスタッフからも尊敬されている。また、本年度秋田県立本荘高校において、高大接続ワークショップとして高校生向けに講演を行った。	後藤 猛
〃	加賀谷 健	工学資源学部 地球資源学科 4年次	-ALL ROOMsスタッフとして平成28年4月から1年間勤務し、最学年としてチームを取りまとめる役割を担った。もともと常連のユーザーであったため、ALL ROOMsを熟知しており、スタッフが気が付かないようなユーザーの視点を惜しみなく還元してくれた。本人は他のスタッフと比較しても明らかに高校まで英語が得意ではなかったが、一人倍の努力をして高度な英語力を身に付けた。TOEICの点数は875点と、理系学生における模範的学習者である。また、本年度秋田県立本荘高校において、高大接続ワークショップとして高校生向けに講演を行った。	後藤 猛

副学長表彰被表彰者一覧<課外活動関係>

賞	氏名	所属	種目/成績	大会名	所属団体	顧問教員			
課外活動(団体)	男子ハンドボール部		男子1部リーグ 第3位	第51回東北学生ハンドボール春季リーグ戦		佐藤 靖			
			男子の部ブロックA組 2位	第38回ミニミニカップ東日本学生選手権大会					
〃	女子ハンドボール部		女子の部Aリーグ 第4位	第51回東北学生ハンドボール春季リーグ戦		佐藤 靖			
			女子の部Aリーグ 第4位	第61回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦					
〃	柔道部		男子団体準優勝	平成28年度河北新報旗争奪東北学生柔道優勝大会		三戸 範之			
			女子3人制ベスト8	全日本学生柔道優勝大会女子第25回					
〃	硬式庭球部		準優勝	第67回東北地区大学体育大会テニスの部		荒戸 裕之			
〃	医学部女子バスケットボール部		女子の部優勝	第54回北日本医科学生バスケットボール大会		齊藤 元			
〃	医学部男子サッカー部		団体優勝	第50回北日本医科学生体育大会サッカー競技		尾野 恭一			
〃	医学部女子ソフトテニス部		女子団体戦優勝	第59回東日本医科学生総合体育大会ソフトテニス競技		清水 徹男			
〃	医学部剣道部		男子団体優勝	第59回東日本医科学生総合体育大会剣道競技		羽淵 友則			
			女子団体優勝	第49回北日本医科歯科学生剣道大会					
〃	医学部弓道部		団体優勝	第59回東日本医科学生総合体育大会弓道競技		尾野 恭一			
課外活動(個人)	櫻庭 あさひ	教育文化学部 学校教育課程2年次	女子無差別級	優勝	第33回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之		
			男子100kg級	準優勝	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会東北予選	柔道部	三戸 範之		
〃	柿崎 比呂	教育文化学部 学校教育課程2年次	男子無差別級	準優勝	第33回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之		
			男子100kg級	準優勝	第35回東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部	三戸 範之		
〃	近藤 大地	教育文化学部 学校教育課程4年次	男子無差別級	優勝	第33回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之		
			男子66kg級	第3位	第35回東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部	三戸 範之		
〃	成田 大佑	教育文化学部 学校教育課程3年次	男子73kg以下級	準優勝	第33回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之		
			男子81kg以下級	優勝	第33回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之		
〃	菅原 将也	教育文化学部 学校教育課程4年次	男子81kg以下級	優勝	第33回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之		
〃	佐藤 拓真	教育文化学部 学校教育課程3年次	男子73kg以下級	優勝	第33回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之		
〃	斉藤 貴史	教育文化学部 学校教育課程4年次	男子81kg以下級	第3位	第33回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之		
〃	佐々木 優	医学部 保健学科2年次	女子200mバタフライ	第2位	第9回北部学生選手権水泳競技大会	水泳部	土岐 仁		
			女子100mバタフライ	第1位	第31回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会				
			女子200mバタフライ	第1位	第67回東北地区大学体育大会 水泳の部				
〃	松田 朝妃	理工学部 3A7E7サイ工学科1年次	女子100m背泳ぎ	第2位	第31回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会	水泳部	土岐 仁		
			女子200m個人メドレー	第2位	第67回東北地区大学体育大会 水泳の部	水泳部	土岐 仁		
女子200m自由形	第3位								
〃	津谷 明香里	医学部 医学科3年次	男子新人戦	第3位	第22回東北学生基礎スキー技術選手権大会	基礎スキー部	高崎 康志		
〃	廣田 航	教育文化学部 地域文化学科2年次	クロスカントリー 女子個人スプリント	第1位	第58回東日本医科学生総合体育大会スキー競技	医学部女子競技スキー部	高橋 直人		
〃	永井 久子	医学部医学科1年次	女子4×100m リレー	第1位	第59回東日本医科学生総合体育大会陸上競技	医学部女子陸上競技部	河谷 正仁		
								医学部医学科2年次	
									医学部医学科3年次
〃	亀山 雛子	医学部医学科2年次	女子4×400 mリレー	第1位	第28回北日本医科学生陸上競技大会	医学部女子陸上競技部	河谷 正仁		
								医学部医学科3年次	
									医学部保健学科3年次
〃	広田 有紀	医学部医学科3年次	女子800m	第4位	第100回日本陸上競技選手権大会	陸上競技部	土岐 仁		
〃	富樫 颯	医学部医学科1年次	男子個人・ペア	優勝	第59回東日本医科学生総合体育大会ソフトテニス競技	医学部男子ソフトテニス部	清水 徹男		
								医学部医学科6年次	
〃	照井 幹司	医学部医学科2年次	男子個人・ペア	優勝	第10回秋季北日本医歯薬学生ソフトテニス大会	医学部男子ソフトテニス部	清水 徹男		
								医学部医学科2年次	
〃	泉澤 沙弥香	医学部医学科5年次	女子個人・ペア	優勝	第59回東日本医科学生総合体育大会ソフトテニス競技	医学部女子ソフトテニス部	清水 徹男		
								医学部医学科5年次	
〃	小林 祐太郎	医学部医学科1年次	男子個人	優勝	第59回東日本医科学生総合体育大会剣道競技	医学部剣道部	羽淵 友則		
〃	木村 早希	医学部医学科2年次	女子個人	優勝	第49回北日本医科歯科学生剣道大会	医学部剣道部	羽淵 友則		
〃	小松 史怜	医学部医学科3年次	個人	第1位	第59回東日本医科学生総合体育大会ゴルフ競技	医学部ゴルフ部	羽淵 友則		

外国人留学生数

国名	学 部														大 学 院										合 計		合 計																																							
	学部 国別計	国際資源学部		教育文化学部		医学部		工学資源学部		理工学部		小計	大学院 国別計	国際資源学部		教育学研究科		医学系研究科		理工学研究科		工学資源学部		小計	合 計																																									
		正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規			正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規		正規	非正規		正規	非正規																																					
		国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費			国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費		国費	私費		国費	私費	国費	私費																																			
中国	38	1		3(1)	17(12)	2					14(1)	1	20(2)	18(12)	11	2						3(1)	1	5(1)	1	10(2)	1	30(4)	31	18(12)	18	49																																		
マレーシア	30	9(5)									21(5)		30(10)		4							4				4	34(10)	34			34																																			
ベトナム	23	4(2)		1(1)		1(1)		2		14(5)	1(1)	22(9)	1(1)	5							4(3)	1(1)		1(1)	4(3)	1(1)	26(12)	27	1(1)	1	28																																			
韓国	16			2(1)	12(2)					1(1)		3(2)	12(2)														3(2)	3	12(2)	13	16																																			
モンゴル	9	8(6)	1									8(6)	1	8	1(1)	4(1)							3(1)	1(1)	7(2)	1(1)	15(8)	16	1	1	17																																			
アラブ首長国連邦	2	2										2															2	2			2																																			
ザンビア	0												3	2					1						1	2	1	2	3		3																																			
インドネシア	0												12	3(2)	6	1(1)						2(1)			5(3)	6	1(1)	5(3)	6	11	1(1)	12																																		
ボツワナ	0												6	2(2)	1(1)	2(1)						1(1)			3(3)	1(1)	3(3)	1(1)	4	2(1)	2	6																																		
アフガニスタン	0												1										1		1		1	1			1																																			
南アフリカ	0												1	1(1)											1(1)		1(1)	1			1																																			
ジンバブエ	0												1	1											1		1	1			1																																			
ケニア	0												2	2											2		2	2			2																																			
マラウイ	0												1										1		1		1	1			1																																			
タイ	0												1									1(1)			1(1)		1(1)	1			1																																			
フィリピン	0												6	4(3)	1							1(1)			5(4)	1	5(4)	1	6		6																																			
バブアニューギニア	0												3	2	1(1)										2	1(1)	2	1(1)	3		3																																			
イラン	0												2										2		2		2	2			2																																			
台湾	1					1						1															1	1			1																																			
パキスタン	0												1	1											1		1	1			1																																			
セルビア	0												1									1		1		1	1				1																																			
モザンビーク	2		2									2	2	1								1(1)			2(1)		2(1)	2	2	2	4																																			
マダガスカル	0												1	1											1		1	1			1																																			
イスラエル	1				1								1															1	1		1																																			
計	122	0	24(13)	0	3	0	6(3)	2	29(14)	0	4(1)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50(12)	0	2(1)	0	86(29)	2	34(15)	72	12(8)	24(4)	2(1)	1(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12(5)	0	0	11(5)	9(2)	0	0	24(13)	45(11)	2(1)	1(1)	24(13)	131(40)	155	4(1)	35(16)	39	194

※()内は、女子学生数(内数) ※「国費」とは日本政府(文部科学省)奨学生を示し、大学推薦・大使館推薦・国内採用を含む。
 ※「非正規」とは、日研究生・教研究生・特別聴講学生/特別研究学生(交換留学生)・科目等履修生・研究生を指す。
 ※「私費」には、政府派遣留学生(アラブ首長国連邦・マレーシア)を含む。

外国人研究員等

〈外国人研究員数〉

平成28年度受入実績

部局名	国・地域	人数
理工学研究科	中国	2
	インド	2
	アメリカ	1

〈外国人客員研究員数〉

平成28年度受入実績

部局名	国・地域	人数
国際資源学部	インドネシア	4
	トルコ	1
医学系研究科	ベラルーシ	2
理工学研究科	ニュージーランド	1

〈非常勤研究員数〉

平成28年度受入実績

部局名	国・地域	人数
理工学研究科	インド	2
	ロシア	1
地方創生センター	中国	3
	インド	2

国際交流協定校

〈大学間協定(30カ国地域58大学)〉

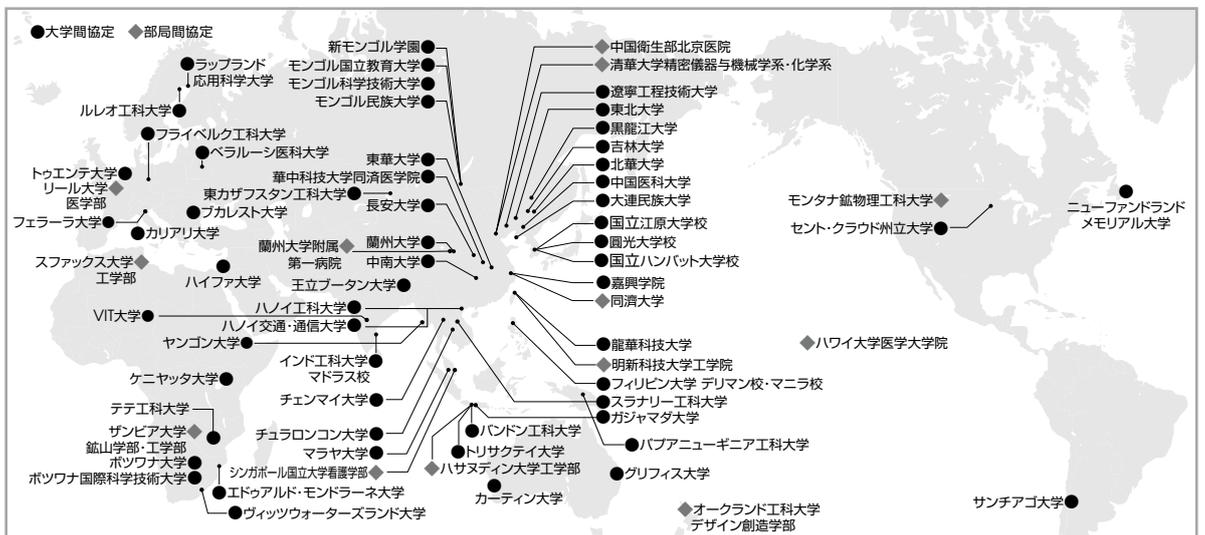
平成29年5月1日現在

国・地域名	大学名	締結年月日	
アジア	インド	インド工科大学マドラス校 VIT大学	平成26年 3月21日 平成27年 6月12日
	インドネシア	バンドン工科大学	平成24年 7月12日
		トリサクテイ大学	平成26年 6月10日
		ガジャマダ大学	平成27年 6月 8日
	韓国	国立ハンバット大	平成13年 6月 8日
		圓光大学校	平成19年10月12日
		国立江原大	平成20年 3月24日
	タイ	チュロンコン大学	平成24年11月28日
		スラナリー工科大学	平成27年 8月17日
	台湾	チェンマイ大学	平成27年12月10日
		龍華科技大	平成17年 7月15日
	中国	黒龍江大	昭和63年10月19日
		中国医科大学	平成 元年10月 6日
		中南大	平成16年 8月24日
		遼寧工程技術大	平成17年 4月20日
		大連民族大	平成17年 6月27日
		蘭州大	平成17年 8月 1日
		吉林大	平成19年 2月 6日
		東北大	平成19年 8月 9日
		東華大	平成21年12月 3日
華中科技大学同済医学院		平成22年 3月24日	
長安大		平成22年11月18日	
北華大		平成24年11月20日	
嘉興学院		平成26年11月12日	
フィリピン		フィリピン大学デリマン校 フィリピン大学マニラ校	平成24年 9月24日 平成25年 2月 4日
ブータン王国	王立ブータン大	平成24年 6月14日	
ベトナム	ハノイ工科大学 ハノイ交通・通信大	平成20年12月 2日 平成20年12月 3日	
マレーシア	マラヤ大	平成25年11月20日	
ミャンマー	ヤンゴン大	平成26年 9月19日	
モンゴル	モンゴル科学技術大	平成21年10月22日	
	モンゴル国立教育大	平成22年 7月23日	
	モンゴル民族大	平成25年 6月19日	
新モンゴル学園	平成28年 1月25日		
中東	イスラエル	ハイファ大	平成22年 9月24日
アフリカ	ケニア	ケニヤッタ大	平成22年 3月 2日
	ボツワナ	ボツワナ国際科学技術大	平成21年10月23日
		ボツワナ大	平成23年 3月31日
	モザンビーク	エドゥアルド・モンドラーネ大	平成26年 1月12日
	南アフリカ共和国	テテ工科大学	平成29年 3月23日
グウィツツウオーターズランド大	平成26年 9月 1日		
オセアニア	オーストラリア	グリフィス大 カーティン大	平成 6年 6月29日 平成25年 8月 1日
	バブアニューギニア	バブアニューギニア工科大学	平成28年 8月 3日
北米	アメリカ合衆国	セント・クラウド州立大	平成 8年 7月24日
	カナダ	ニューファンドランドメモリアル大	平成25年 6月17日
中南米	チリ	サンチアゴ大	平成25年11月21日
ヨーロッパ (NIS諸国を含む)	イタリア	カリアリ大 フェラーラ大	平成21年12月 9日 平成26年 6月30日
	オランダ	トゥエンテ大	平成19年10月23日
	カザフスタン	東カザフスタン工科大学	平成23年 6月 8日
	スウェーデン	ルレオ工科大学	平成25年 5月 9日
	ドイツ	フライベルク工科大学	平成24年 7月 4日
	フィンランド	ラップランド応用科学大	平成21年10月23日
	ベラルーシ	ベラルーシ医科大	平成16年 7月26日
	ルーマニア	ブカレスト大	平成22年 9月28日

〈部局間協定(9カ国地域17学部等)〉

平成29年5月1日現在

部局名	国・地域名	大学・学部等名	協定締結年月日	
国際資源学部	アジア	インドネシア ハサヌディン大工学部	平成26年4月23日	
医学系研究科	アジア	中国 中国衛生部北京医院	平成7年11月14日	
	シンガポール	シンガポール国立大看護学部	平成28年3月7日	
	ヨーロッパ (NIS諸国を含む)	フランス リール大医学部	平成23年4月13日	
医学部附属病院	北米	アメリカ ハワイ大ジョン・A・バーンス医学大学院	平成28年8月4日	
	アジア	中国 蘭州大附属第一医院	平成26年6月12日	
工学資源学 研究科・工学資源学部	アジア	台湾	明新科技大学工学院	平成22年4月12日
		中国	清華大精密機器と機械学系	平成19年3月1日
			清華大化学系	平成20年1月17日
		中国	同済大材料科学与工程学院	平成22年5月24日
	中国	同済大上海市金属功能材料開発応用重点実験室	平成22年5月24日	
	アフリカ	ザンビア	ザンビア大鉱山学部 ザンビア大工学部	平成15年1月20日 平成15年3月12日
		チュニジア	スファックス大工学部	平成15年12月18日
	オセアニア	ニュージーランド	オークランド工科大学デザイン創造学部	平成24年11月27日(覚書交換)
	北米	アメリカ	モンタナ鉱物理工科大学	昭和57年6月24日
	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	アジア	中国 同済大上海市金属功能材料開発応用重点実験室	平成23年9月2日



〈平成28年度実施〉

講座名	内 容	開催時期	参加者数	担当の学部
資源とは何か？ ー社会・人類と資源の 関わりー (全5回)	資源と社会の関係には複雑で多面的な見方があります。資源の国、秋田においてもう一度資源を見直し、今資源に関連して世界で起こっていることを一緒に学んでみませんか。	平成28年 7月7日(木) ～8月10日(水)	140	国際資源 学部
トランペットの歴史から見る西洋音楽文化 (全2回)	吹奏楽やオーケストラに含まれる楽器としてトランペットは現代の日本においてとても身近な存在ですが、この楽器の音色に日本人はどのような意味を見いだしているのでしょうか。トランペットは紀元前に遡る歴史があり、ヨーロッパ人には独特な象徴的響きを伴って聴こえているはずなのです。この点の理解を深めれば、クラシック音楽を聴くときに新たな聴き方ができるようになるかもしれません。トランペットの話をつきかけに音楽への探求の扉が開かれます。	平成28年 7月16日(土) ～23日(土)	28	教育文化学 部
数理学の世界 (全6回)	数学、物理学、計算機科学に代表される数理学は社会でどのように役立っているか、そして、どのように我々の生活や暮らしに関係しているか、数理学の基礎を予備知識なしで理解できるよう解説し、世の中の多くの技術が数理学に関連している事を明らかにします。	平成28年 8月25日(木) ～9月30日(金)	192	理工学部
声楽講座 ー個人レッスンを中心とした 発声法と歌唱法ー (全3回)	発声技術や歌唱技術の向上を目指す方を対象に、声楽を専門とする教員が個人レッスンを中心に指導します。	平成28年 9月1日(木) ～11日(日)	24	教育文化 学部
看護・リハビリテーションの専門家による乳幼児期の子育て講座 (全3回)	乳幼児期の子育てには不安や悩みが多く、特に初めての場合は様々な事が心配になります。本講座では市町村で提供される子育て講座とは異なり、看護やリハビリテーションの専門家の視点から乳幼児の発達について解説し、子育てのヒントを提供します。	平成28年 10月18日(火) ～11月1日(火)	51	医学部
食生活を通して守る家族の健康 ～栄養と食事に関する 援助の視点から～ (全3回)	食べることは生きる源です。私たちは自分や家族の健康・美容のために、栄養を考えたり、おいしく食べる方法を工夫しながら生活しています。しかし、食に関する情報があふれている日常の中で、体によいといわれている栄養素の作用や食べるための身体機能についてじっくりと考える機会は意外と少ないかもしれません。本講座では、栄養学的視点および食べることに関する身体機能や援助方法について解説します。食生活を通して自分や家族の健康を守るために役立つ知識・技術を学びましょう。	平成28年 11月2日(水) ～16日(水)	72	医学部
ビジネスに関わる人のためのデザイン講座 (全4回)	企業等で各種業務を行う際、自らデザインを行わなければならない状況や、デザイナーなどとの協働作業を迫られる場面があります。また、多くの場合「学生時代は美術や図工が苦手だった」方がその任に当たることが多く、苦手だからといって逃げられない現実があります。本講座ではそのような方を対象に、ビジネスを行う上での「デザインのコツ」を実習や実際の事例を交えながら、分かりやすく解説します。	平成28年 11月4日(金) ～25日(金)	40	教育文化 学部
サイコロジカル・カフェ (全6回)	秋田大学大学院教育学研究科心理教育実践専攻を担当する専任教員全員による専門領域別のアラカルトメニューカフェ。最新の心理学の知見を分かりやすく披露します。こころの不思議や健康について、カフェでおしゃべりする感覚で気軽に楽しく体験してみましょう。	平成28年 11月11日(金) ～25日(金)	90	教育文化 学部
アクティブラーニングを体験しよう (全3回)	近年の大学では、伝統的な講義形式の一斉授業とは異なり、プレゼンテーションやスピーチ、ネゴシエーションやディベートなどのコミュニケーション活動を積極的に取り入れた「アクティブラーニング」と呼ばれる新しい教育実践の重要性が高まっています。本講座は、これまで学生(大学生や大学院生)を対象に実施してきたアクティブラーニングの実践の一部を地域住民向けに開放し、大学での新しい教育方法を体験しながら、大学教育について共に考える機会とします。	平成28年 11月30日(水) ～12月14日(水)	51	評価セン ター
どうして肩がこるのだろう？原因別の対策 (全3回)	肩こりに悩む方の数は非常に多く、有訴者数の上位を占めています。その原因は多彩で、原因別の対策が必要です。本講座では肩こりの原因となるものを解説し、日常生活における対策や、有効な体操療法について学びます。	平成28年 12月1日(木) ～15日(木)	63	医学部

平成29年度開催予定の公開講座は で検索できます。

国内機関との連携・協力協定

〈大学間協定〉

平成29年5月1日現在

	協定締結日	締結先	協定の形態等	備考
自治体	平成18年 9月25日	秋田県	連携協定	
	平成20年 7月11日	秋田市	//	
	平成20年10月24日	大館市	//	
	平成20年11月 5日	小坂町	//	
	平成20年11月17日	能代市	//	
	平成21年 2月 7日	横手市	//	
	平成21年10月 6日	北秋田市	//	
	平成22年 5月26日	大仙市	//	
	平成22年12月10日	八峰町	//	
	平成23年 2月17日	男鹿市	//	
	平成23年 5月13日	美郷町	//	
	平成24年 2月17日	潟上市	//	
	平成24年11月20日	湯沢市	//	
	平成26年 9月26日	東成瀬村	//	
	平成26年11月26日	仙北市	//	
大 学	平成10年 3月23日	放送大学	単位互換に関する協定	
	平成14年 3月27日	秋田県内3大学	//	
	平成14年 5月22日	北東北国立3大学	//	
	平成15年10月 9日	秋田県内高等教育機関	//	平成22年4月1日からは12高等教育機関へ拡大
	平成19年12月25日	群馬大学	グローバルCOEプログラム「生態調節シグナルの統合的研究」	
	平成20年 7月22日	秋田県立大学	連携協力協定	
	平成21年 3月24日	秋田県立大学、国際教養大学	//	平成26年4月1日からは秋田公立美術大学を加えて秋田県内4大学へ拡大
	平成24年10月 3日	東北公益文科大学	//	
その他企業等	平成25年 1月31日	東京大学生産技術研究所	//	
	平成15年12月24日	秋田県立脳血管研究センター	連携大学院協定	
	平成17年 3月17日	秋田大学生生活協同組合	福利厚生事業に関する協定	
	平成18年 7月19日	(株)秋田銀行	連携協力協定	
	平成18年10月24日	(株)北都銀行	//	
	平成18年12月 6日	商工組合中央金庫秋田支店	産学連携協力推進協定	
	平成19年 3月 6日	(株)日本政策金融公庫 秋田支店	//	中小企業金融公庫から平成20年10月1日に改称
	平成19年 7月24日	DOWAホールディングス(株)	包括的連携協定	
	平成20年 3月21日	(国研)宇宙航空研究開発機構	宇宙教育活動に関する協力協定	
	平成20年 9月11日	(株)わらび座	連携協力協定	
	平成23年 4月13日	(独)石油天然ガス・金属鉱物 資源機構	資源分野における包括協定	
	平成23年11月29日	美郷町商工会	産学連携に関する覚書	
	平成24年 1月20日	大仙市商工会	//	
	平成25年11月19日	(独)国際協力機構(JICA)	資源分野の戦略的連携合意書	
	平成26年 9月24日	(株)北都銀行	新戦略連携協定	
平成28年 7月14日	北東北国立3大学、秋田銀行、岩手銀行、青森銀行	知的財産の活用に関する協定「ネットビックスプラス」		
平成29年 3月29日	東京工業大学、(一社)秋田県医師会	連携協定		
平成29年 4月11日	(株)秋田魁新報社	包括的連携協力協定		

〈部局間協定〉

平成29年5月1日現在

部局名	協定締結日	締結先	協定の形態等
国際資源学部	平成26年11月 1日	高知大学海洋コア総合研究センター	学部間協定
教育文化学部	平成19年 3月23日	秋田県秋田北高等学校	連携教育協定
	平成21年 3月26日	秋田県教育委員会	秋田県総合教育センター研修員の授業科目の履修に関する協定
	平成24年 8月 1日	秋田県教育委員会、秋田市教育委員会	連携協定
理工学研究科	平成17年12月13日	秋田工業高等専門学校	学部間協定
	平成18年10月 1日	国際資源大学校	//
	平成18年11月21日	秋田県産業技術総合研究センター	//
	平成25年12月 5日	秋田県、能代市	連携協定
	平成28年 1月 4日	信州大学工学部	//

役員数

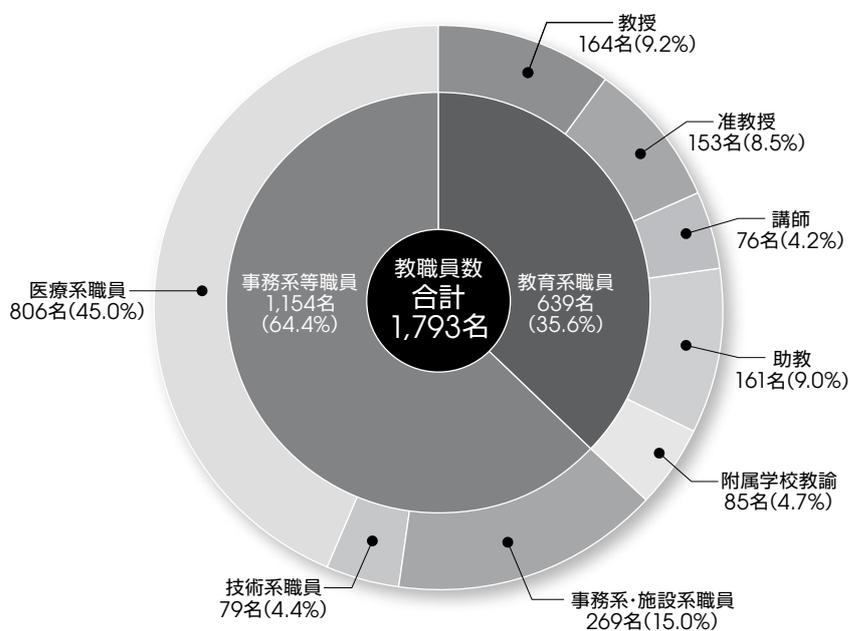
平成29年5月1日現在

区分	学長	理事	監事	計
学長	1			1
理事		5 (1)		5 (1)
監事			2 (1)	2 (1)
計	1	5 (1)	2 (1)	8 (2)

※()内の数は非常勤で内数

教職員数

平成29年5月1日現在



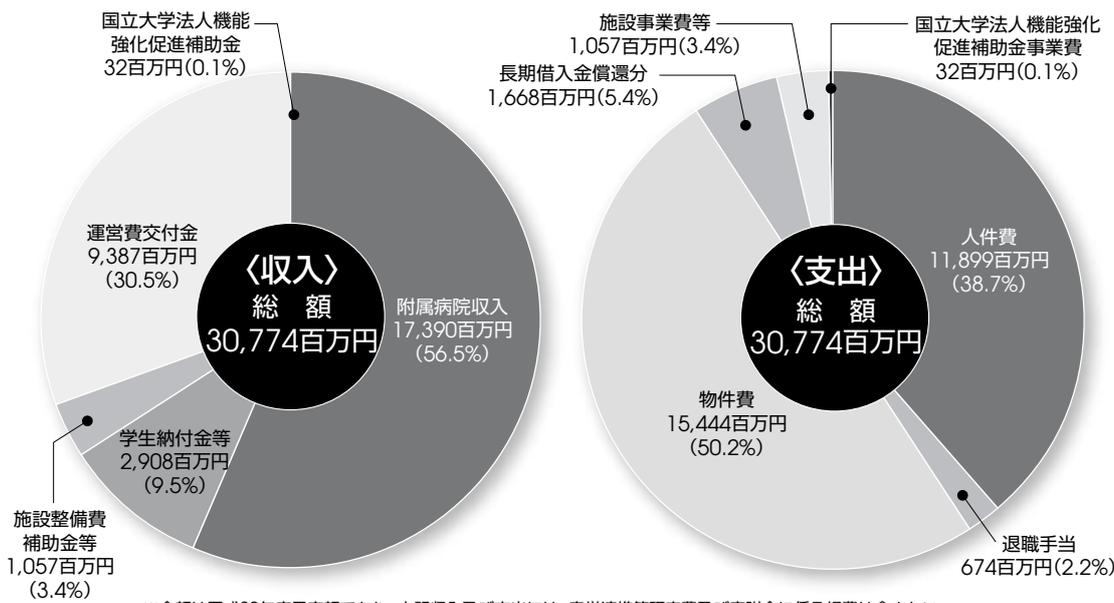
※教育系職員には特任教員を含め、寄附講座等教員を除く。

職別・男女別

平成29年5月1日現在

区分	教授		准教授		講師		助教		附属学校教諭		事務系・施設系教員		技術系職員		医療系職員	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
男	150	91.5	131	85.6	64	84.2	110	68.3	41	48.2	162	60.2	62	78.5	147	18.2
女	14	8.5	22	14.4	12	15.8	51	31.7	44	51.8	107	39.8	17	21.5	659	81.8
合計	164		153		76		161		85		269		79		806	

平成29年度予算



※金額は平成29年度予算額であり、上記収入及び支出には、産学連携等研究費及び寄附金に係る経費は含まない。

外部資金 受入状況

単位:千円

名称	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	件数	金額												
民間等との共同研究	56	75,131	62	59,464	71	64,480	78	77,127	73	73,014	78	84,678	83	97,171
受託研究	84	371,986	110	273,757	131	344,289	123	279,478	92	381,405	113	530,846	119	496,638
奨学寄附金	801	643,222	769	816,153	705	423,299	738	457,548	702	433,377	739	422,972	753	464,698
寄附講座・部門	5	216,800	6	222,600	6	226,800	6	204,000	4	162,000	4	156,000	4	156,000
合計	946	1,307,139	947	1,371,974	913	1,058,868	945	1,018,153	871	1,049,796	934	1,194,496	959	1,214,507

※受託研究には治験薬試験・病理組織検査・受託試験を含まない。奨学寄附金には教育研究支援基金・みらい創造基金を含まない。

平成28年度科学研究費 助成事業採択状況

単位:千円 平成29年3月31日現在

研究種目	採択件数	交付金額		
		直接経費	間接経費	合計
新学術領域研究(研究領域提案型)	2	32,800	9,840	42,640
基盤研究(S)	0	0	0	0
基盤研究(A)	3	21,400	6,420	27,820
基盤研究(B)	14	64,400	19,320	83,720
基盤研究(C)	158	172,600	51,780	224,380
挑戦的萌芽研究	16	15,800	4,740	20,540
若手研究(A)	2	7,900	2,370	10,270
若手研究(B)	37	39,000	11,700	50,700
研究活動スタート支援	4	4,200	1,260	5,460
奨励研究	10	4,610	-	4,610
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)※2	1	3,700	1,110	4,810
合計	247	366,410	108,540	474,950

※1 平成29年度概要より、前年度確定額を掲載

※2 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)については、研究期間に応じて金額を按分

土地・建物

区 分		建物 延床面積(m ²)	土地(m ²)	
手形地区	国際資源学部	学 部	8,904	200,277
		附属鉱業博物館	3,864	
	教育文化学部	学 部	16,873	
		附属教育実践研究支援センター	560	
	理工学部	学 部	30,667	
		附属理工学研究センター	2,975	
		附属ものづくり創造工学センター	684	
	中央図書館	4,604		
	情報統括センター	1,003		
	地方創生センター 1号館(百周年記念館含む)	2,151		
	地方創生センター 2号館	2,878		
	放射性同位元素センター	338		
	保健管理センター	561		
	大学会館(クレール)	3,322		
	本部管理棟他	9,800		
	体育関係施設	3,827		
	課外活動施設	1,396		
小 計		94,407		
本道地区	医学部	学 部	34,180	168,219
		附属病院	63,944	
		附属病院シミュレーション教育センター	1,347	
	医学図書館	1,717		
	バイオサイエンス教育・研究サポートセンター	7,359		
	環境安全センター	366		
	本道会館(メディココ)	1,355		
	体育関係施設	1,079		
	課外活動施設	396		
	本道寮(女子)	1,317		
	職員宿舎(糠塚)・看護師宿舎	6,878		
	保育所	334		
	小 計		120,272	
保戸野地区	教育文化学部附属幼稚園	1,212	68,807	
	教育文化学部附属小学校	7,680		
	教育文化学部附属中学校	7,628		
	教育文化学部附属特別支援学校	3,338		
	小 計	19,858		
その他	手形寮(女子)、西谷地寮(男子) 他	6,462	27,847	
	職員宿舎(休下町、城下町 他)	6,074		
	上記以外	710		
	小 計	13,246		
合 計		247,783	465,150	

各連絡先・所在地一覧

Telephone Number and Address

〈手形地区〉

名称	電話番号	所在地
総務企画課総務担当（総合案内）	018-889-2207	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
評価・IRセンター	018-889-2937	
附属図書館 中央図書館	018-889-2273	
保健管理センター	018-889-2286	
産学連携推進機構	018-889-2712	
情報統括センター	018-889-2499	
地方創生センター	018-889-3007	
地方創生センター 1号館	018-889-2680	
地方創生センター 2号館	018-889-3040	
国際資源学教育研究センター	018-889-2810	
放射性同位元素センター	018-889-3006	
国際交流センター	018-889-2856	
教育推進総合センター	018-889-3191	
高大接続センター 高大接続教育部門	018-889-3045	
高大接続センター アドミッション部門・広報推進部門	018-889-2269	
教員免許状更新講習推進センター	018-889-3205	
学生支援総合センター	018-889-2265	
男女共同参画推進室	018-889-2260	
インフォメーションセンター	018-889-2931	
国際資源学部 総務担当	018-889-2214	
国際資源学部 附属鉱業博物館	018-889-2461	
教育文化学部 総務担当	018-889-2509	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
教育文化学部 附属教育実践研究支援センター	018-889-2700	
理工学部 総務担当	018-889-2305	
理工学部 附属理工学研究センター	018-889-2460	
理工学部 附属ものづくり創造工学センター	018-889-2806	
理工学部 附属地域防災力研究センター	018-889-2305	



手形地区

〈本道地区〉

名称	電話番号	所在地
医学部（総合案内）	018-833-1166	〒010-8543 秋田市本道1-1-1
医学部 附属病院（総合案内）	018-834-1111	
医学部 附属病院	018-884-6427	
シミュレーション教育センター	018-884-6191	
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター 分子医学部門	018-884-6191	
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター 動物実験部門	018-884-6193	
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター 放射性同位元素部門	018-884-6196	
生体情報研究センター	018-884-6467	
環境安全センター	018-884-6192	
附属図書館 医学図書館	018-884-6052	



本道地区

〈保戸野地区〉

名称	電話番号	所在地
教育文化学部 附属幼稚園	018-862-2343	〒010-0904 秋田市保戸野原の町14-32
教育文化学部 附属小学校	018-862-2593	〒010-0904 秋田市保戸野原の町13-1
教育文化学部 附属中学校	018-862-3350	〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75
教育文化学部 附属特別支援学校	018-862-8583	



保戸野地区

〈その他施設等〉

名称	電話番号	所在地
西谷地寮(男子)	—	〒010-0851 秋田市手形西谷地5-1
手形寮(女子)	—	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
本道寮(女子)	—	〒010-0825 秋田市柳田字糠塚100-3
国際交流会館	—	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
留学生会館	—	〒010-0041 秋田市広面字高田4
横手分校	0182-38-8304	〒013-0036 横手市駅前町1-21
北秋田分校	0186-62-1111	〒018-3392 北秋田市花園町19-1
男鹿なまはげ分校	0185-24-9126	〒010-0595 男鹿市船川港船川字泉台66-1
東京サテライト	03-5440-9104	〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター 606号室
放送大学秋田学習センター	018-831-1997	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

本道地区施設配置図

Hondo Campus Map



保戸野地区施設配置図

Hodono Campus Map



アクセス

Access



〈秋田まで〉

平成29年4月現在

東京から	羽田空港—秋田空港(約1時間5分)
	秋田新幹線「こまち」 東京駅—秋田駅(約4時間)
名古屋から	中部国際空港—秋田空港(約1時間20分)
大阪から	大阪国際(伊丹)空港—秋田空港(約1時間30分)
札幌から	新千歳空港—秋田空港(約1時間)
秋田空港～ 秋田駅間 リムジンバス	秋田空港—秋田駅西口(約35分)
	秋田空港—秋田駅東口(約30分) ※1日1便のみ

〈秋田駅から秋田大学まで〉

平成29年4月現在

行き先	バス路線(秋田中央交通)	秋田駅前 バスのりば	下車バス停(所要時間)
手形 地区	手形山大学病院線	西口⑫番	秋田大学前(約5分)
	●秋田駅東口より徒歩約15分		
本道 地区	太平線	西口⑪番	大学病院前 (約12～20分)
	赤沼線		
	松崎団地線		
	手形山大学病院線		
保戸野 地区	赤沼線	東口②番	原の町 (約5～21分)
	神田旭野線	西口⑧番	
	添川線		
	神田土崎線 ※平日のみ		
	泉八橋環状線 ※平日のみ (泉回り)	西口⑨番	
榎山大回り線 ※平日のみ			



学 年 暦

●学年

前 期…… 4月1日～9月30日

後 期……10月1日～3月31日

●式典

入学式……4月 6日

卒業式……3月22日

●休業(平成29年～平成30年)

夏季休業…… 8月11日～ 9月30日

冬季休業……12月26日～ 1月 8日

春季休業…… 2月21日～ 4月 3日

ロゴマーク



秋田大学のロゴマークには、次の四つの意味が表現として込められています。

- 1 本学名称の英語表記“Akita University”の頭文字の小文字“a”を表現している。
 - 2 本学が秋田県に存在し、また秋田県に根ざした大学となることを目指していることから、秋田県の「海岸線」のイメージを表現している。
 - 3 本学が四つの学部から構成される大学であることのイメージを表現している。
 - 4 本学が「世界」と「地域」の両面へ貢献する大学であることのイメージを表現している。
-

秋田大学概要 平成29年度

[編集発行]

秋田大学 広報課

秋田市手形学園町1番1号 〒010-8502
TEL018-889-3019 FAX018-889-3242
E-mail kouhou@jimu.akita-u.ac.jp
<http://www.akita-u.ac.jp>